



愛媛に集え最強の拳士達

第12回オープントーナメント

四国選抜空手道選手権大会

《令和7年今治市山林火災支援チャリティ》
グランドチャンピオン決定戦権利指定大会

2025.8.3 愛媛県武道館主道場

開場／9:00 開会／10:00

主催／一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場

後援／愛媛県・愛媛県教育委員会・愛媛県議会・松山市・松山市教育委員会

松山市議会・公益財団法人愛媛県スポーツ協会

公益財団法人愛媛県スポーツ振興事業団・愛媛大学・愛媛新聞社・南海放送

あいテレビ・テレビ愛媛・愛媛朝日テレビ

祝 第12回オープントーナメント 四国選抜空手道選手権大会



創業40年 自社一貫体制で高品質な「木の家」をつくります



えひめの森からつくる家

新日本建設株式会社

代表取締役会長 井上 秀明

〒791-0054 松山市空港通3丁目9-3 TEL.089-971-0255

大会式次第

10:00 開会式

- 開会太鼓 (西条支部・西条氷見支部長 志賀賢一)
 - 国旗掲揚
 - 開会宣言
 - 大会会長挨拶
 - 来賓挨拶
 - 今治山林火災支援金贈呈式
 - 四国アイランドリーグ
 - 選手宣誓
- 大会運営委員長 戸田美智男
新日本建設(株)代表取締役会長 井上秀明
(一社)極真会館理事長 田畑繁
衆議院議員 塩崎彰久
今治市教育長 小澤和樹
愛媛マンダリンパイレーツ選手紹介
三上和久選手

10:20 試合開始

各コートにて決勝戦、表彰まで実施

12:00～13:00 各コートにて昼休憩20分間

17:00 決勝戦(Aコート)

- 壮年男子上級の部 軽中量級
- 壮年男子上級の部 重量級
- 一般女子上級の部
- 一般男子上級の部 軽中量級
- 一般男子上級の部 重量級

17:30 表彰式、特別賞授与式

- 壮年男子上級の部 軽中量級
- 壮年男子上級の部 重量級
- 一般女子上級の部
- 一般男子上級の部 軽中量級
- 一般男子上級の部 重量級
- 特別賞 愛媛県知事賞、松山市長賞、愛媛県議会議長賞、愛媛県教育長賞
松山市議会議長賞、松山市教育長賞

閉会式

- 国旗奉納
- 閉会太鼓 (西条支部・西条氷見支部長 志賀賢一)

18:00 終了予定

御 挨 拶

衆議院議員

塩 崎 彰 久



第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会が、本年も盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

極真空手の創始者・大山倍達総裁が確立された直接打撃制のもと、全国各地の流派から多くの精鋭が一堂に会し、日頃の厳しい稽古の成果を競い合う本大会は、まさに栄えある舞台であります。

昨今、世界各地では戦火が広がり、深い憂慮を禁じ得ません。しかしながら、極真空手の理念である「人種・民族・国境を越え、人と人を結びつけて平和な世界を創造すること」は、いまこそ国際親善に寄与する崇高な精神であり、私も衷心より敬意を表する次第です。

私は、一般社団法人国際空手道連盟極真会館が主催する「世界大会」「統一全日本大会」「全日本極真型大会」の大会会長を務めさせて頂いております。その経験を活かし、本大会会長として、そして衆議院議員として、地元愛媛の安全はもとより、日本そして世界の恒久平和の実現に力を尽くす所存です。今後とも、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会のご成功と、極真会館愛媛県戸田道場のさらなるご発展、ならびに出場選手の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

愛媛銀行 頭取

西 川 義 教



本日、ここに、第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。本大会の開催に一方ならぬご尽力を賜りました、一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場様に深く敬意を表します。

また、戸田代表師範におかれましては、次世代の育成が社会課題となるなか、30年前に大洲警察署に「少年空手教室」を開設されて以来、空手をとおして「自立した子供」の育成を続けてこられました。このことにも心より敬意を表させていただきます。

さて、空手道は、大山倍達総裁が座右の銘の筆頭に、「武の道は礼に始まり礼で終わる よって常に礼を正しくすべし」と述べられているように、スポーツの中でも特に礼を重んじ相手を敬う気持を大切にする競技です。対戦相手がいるからこそ試合ができるのであり、相手への敬意を忘れてはならないとの教えです。そして、大山総裁は、座右の銘を、「武の道において信頼と感謝は常に豊かなる収穫を得ることを忘るべからず」の言葉で結んでいらっしゃいます。自分達を指導して下さる方、応援し、支えて下さる方々がいるからこそ空手に打ち込むことができるのです。選手の皆様には、空手はもちろん、何事にも常に感謝の心を忘れず、挑戦していただきたいと思います。空手の道は断崖をよじ登るような厳しいものですが、常に自己反省を欠かさず、そして、弛まず、休むことなく精進を続けていただきたいと思います。

本大会は、関東、近畿、中四国、九州などの12の都道府県から、50の流派、500人余りの選手が集う四国最大の大会と伺っています。

選手の皆様には、更なる高みに向けて、日頃培った力を存分に発揮していただき、一つでも多くの糧を得てくださるようお願いいたします。また、この大会を通じて、お互いの存在が励みとなるよう、交流を深めてくださることを期待いたします。

愛媛銀行では、地域の振興を願って幅広い社会貢献活動を展開しており、スポーツの分野においても様々な支援、協賛を行っているところです。この大会が、意義深い大会となり、地域の発展、飛躍に結実していくことを心よりご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

愛媛県知事

中 村 時 広



第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会が開催されます
こととお喜び申し上げますとともに、御来県の方々を心から歓迎いたします。

一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場におかれましては、空手道の普及・発展に熱心に取り組まれ、青少年の健全育成や地域交流の促進に多大な御貢献をいただいております、深く敬意を表します。

愛媛県では、県民の皆さんが「する」「みる」「応援する」「支援する」といったさまざまな形でスポーツに参画し、楽しさや感動を分かち合い、支え合う「スポーツ立県えひめ」の実現を目指しており、県民誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりや、大規模スポーツ大会の誘致など、各種施策を積極的に展開しています。本年9月に開催する「日本スポーツマスターズ2025愛媛大会」では、空手道を含む13種目の競技を県内15市町の会場で実施し、交流人口の拡大を図るとともに、本県の魅力を広く発信し、愛媛ファンの獲得につなげて参る所存です。

こうした中、四国各地から空手を愛する皆様一堂に会し、本大会が開催されますことは、空手道の発展はもとより、本県のスポーツ振興や地域活力の創出に大いに寄与するものであり、大変意義深く存じます。

選手の皆様には、日頃の稽古の成果を存分に発揮され、白熱した試合を繰り広げられますよう心からのエールを送りますとともに、世代や地域をこえた交流を深められ、実りあるすばらしい大会となりますことを願っています。

終わりに、本大会の御成功と、一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場のますますの御発展、並びに選手の皆様の御健闘を祈念申し上げます。

松山市長

野 志 克 仁



「第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会」が盛大に開催されますこと、心からお祝い申し上げます。また、松山市にお越しになられた選手と関係者の皆様の心から歓迎します。

空手道は、武道とスポーツの要素が融合された競技で、多くの国や地域で親しまれています。本大会は、幼年から壮年まで約550名の選手が参加され、幅広い世代の方々が同じ志を持ち、互いに心技体を磨く姿は、多くの人を魅了することと思います。

選手の皆様には、日頃の厳しい修練の成果を存分に発揮され、新たな友情を築き、活気ある大会になるよう願っています。

さて、松山市には約3千年の歴史があり、日本最古といわれる「道後温泉」があります。国の重要文化財の道後温泉本館は、昨年、保存修理工事を経て、5年半ぶりに全館での営業を再開しました。また、現存12天守の一つ「松山城」など、世界に誇れる歴史的価値の高い観光施設に、この機会に是非お立ち寄りいただければ幸いです。

結びに、本大会の開催に御貢献いただいた一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場をはじめ、関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本大会の御成功と選手の皆様の御健勝、御活躍をお祈りし、お祝いの言葉とします。

御 挨 拶

愛媛県議会議長

福 羅 浩 一



第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会が、盛大に開催されますことを、愛媛県議会を代表してお喜び申し上げます。

一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場におかれましては、平素から本県の空手道の普及・発展を通じて青少年の健全育成に多大な御貢献をいただいております、深く敬意を表します。

近年、我が国では、少子高齢化・人口減少の急速な進行で社会構造が大きく変化し、人々の価値観やライフスタイルが多様化する中、人間関係の希薄化による孤立や世代間交流の減少などの課題が指摘されております。

こうした中、青少年が、空手道などのスポーツを通じて精神の涵養と人格の向上を図り、また、様々な地域活動によって社会性や協調性を身につけ、心身共に成長していく機会は大変重要であり、愛媛県議会では、各種競技大会等を通じた交流人口の拡大や、県民が様々な形でスポーツに参画できる、明るく活力に満ちた「スポーツ立県えひめ」の実現に、これからも全力で取り組むこととしております。

本日、県内外から出場される選手の皆様方におかれましては、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮し、空手道を通じて相互に交流を深められ、今後のさらなる飛躍の契機となる大会になりますことを願っております。

結びに、本大会の開催に御尽力いただきました関係者の皆様方に改めて深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様の御健闘を心から祈念申し上げます。

大会会長

新日本建設株式会社 代表取締役会長

井 上 秀 明



「第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会」の開催に際し、大会会長としてご挨拶を申し上げます。

まずは、スタッフを初め運営にかかわって頂いた多くの関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

私は第1回大会から大会会長を務めさせていただいておりますが、毎年出場する流派と選手が増加しており、今回は560人を超える出場者数となり、四国でも最大の大会の一つに成長したものと大変嬉しく思っております。

これも、極真会館戸田道場が少年健全育成活動や国際親善活動を活発に行ってきたことに対して、多くの方々が大会趣旨をご理解して頂いたからだと思っております。

戸田道場では海外から指導者が愛媛に来訪したり、また本年11月にオーストラリアゴールドコーストで開催される「ワールドカップ」に全日本大会で優秀な成績をあげた神原敏行選手と共に、戸田師範も役員として参加すること、ますます国際的な活動が非常に大きくなっております。

現在世界では各地で未だに大きな戦火が続いていて、国際情勢が混迷を深める中、戸田道場が国際親善活動に貢献していることに深い敬意を表します。

最後になりますが、選手の皆様は正々堂々と戦うと共に稽古の成果を充分に発揮して頂くことを祈念致します。

愛媛県議会議員

松 尾 和 久



本日ここに「第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会」が盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。

大会の準備を初め、スタッフ、県内外の審判の方々など大会運営に携わって頂いた関係者の皆様に対し厚く感謝を申し上げます。

また、極真会館愛媛県戸田道場におかれましては、平素から本県の空手道の普及、発展に多大なご尽力を頂いており深い敬意を表します。

本大会には全国から実に560人を超える過去最多の選手を迎えたということですが、愛媛県議会では空手道などのスポーツを通じて地域や世代間を超えて交流するなど、スポーツを通じて人々が生きがいや感動を体感できる「スポーツ立県えひめ」の実現に向け環境作りに取り組んでいる最中であります。

そのような中、武道振興、地域活性の観点からも、このような大規模な空手道の大会が本県で開催されますことは素晴らしいと思っております。

今後も末永く本大会の継続をお願い致します。

最後に、選手の皆様におかれましては日頃の修練の成果を存分に発揮すると共に、空手道を通じてお互いに交流を深められ心に残る大会となりますことを深く願っております。

一般社団法人国際空手道連盟極真会館 理事長

田 畑 繁



「第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会」がここに盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げますとともに、戸田美智男連合会副理事長をはじめ、塩崎彰久大会会長、大会関係者の皆様には深く敬意を表します。

戸田美智男師範におかれましては、今年11月22日開催のワールドカップ オーストラリア大会には、日本代表役員として参加していただきます。又、愛媛県から日本代表選手として男子40歳～49歳 -85kgに神原敏行選手も参加致します。ぜひ、ワールドカップチャンピオンを愛媛より輩出していただきたいと願っている次第です。

ワールドカップ オーストラリア大会が開催するにあたりまして、大山倍達総裁の「極真」による世界平和貢献ビジョンをご説明いたしたいと思えます。

「極真の世界大会、ワールドカップ大会、国際大会、海外セミナーを通じて国際交流親睦を活性化させ、相互の人権、人命、人格を尊重し、異文化への理解の精神を育み、全世界の極真道場生が「キョクシン」と「押忍」を世界の共通言語として共有し、世界中の道場生が協力し合い、世界平和と幸福の実現を目指すことを使命とする。」

特に世界中の道場生は極真カラテは武道カラテであり、またはソウルカラテと呼びカラテの強さを求めると同時に人格向上を目指し、常に自分に厳しく、人に優しく、礼儀礼節を守り、社会のため世界に貢献していくことこそ、極真の道と信念している人々が多くあります。日本においてもまたしかりです。ともに切磋琢磨し、カラテ道、極真の道を極めていきたいと切に望んでいる次第です。

最後になりますが、本日、選手の皆様は、決して反則をせず、正々堂々と戦うことを願望致します。

御 挨 拶

一般社団法人国際空手道連盟極真会館
愛媛県戸田道場 代表師範

戸 田 美智男



「第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会」の開催に当たり、運営委員長としてご挨拶を申し上げます。

まずは、本大会の運営に当たって頂くスタッフ、審判を初め大会開催に当たりご支援を頂いた多くの方々に心から感謝を申し上げます。

昨年まで本大会は10月に開催していましたが、運動会や地方祭りと重なり出場できない選手が多いため開催時期をずらして欲しいとの声が寄せられ検討した結果、子供たちの夏休みである8月開催と致しました。

そのためもあり、今回は東は東京から西は九州まで全国13都府県から過去最多である50流派563人の選手がここ愛媛県武道館に集まっていただきました。

一昨年から初級者を含む新たに2クラスを設けて同じレベルの選手同士で試合ができるようになり、また従来通り幼年から高校生までの上級クラスの優勝者、準優勝者には、来年6月に開催される「グランドチャンピオン決定戦(第31回全日本少年少女空手道選手権大会)」の出場権が与えられます。

また、一般男子・一般女子・壮年男子の上級の部を初め、各クラスに全日本大会並みの強豪選手が集まっており、誰が優勝してもおかしくない状況となっていて熱い戦いが繰り広げられるものと思われます。

終わりになりますが、選手の皆様は日頃の稽古の成果を遺憾なく発揮して全力で戦って頂きたいと思います。

愛媛県警察極真空手部 部長

丹 下 英 人



一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場主催「第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会」の開催に当たり、愛媛県警察極真空手部を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

この度は、「第12回オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会」の開催、誠にありがとうございます。

愛媛県警察極真空手部を創設された戸田美智男代表師範が率いる一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場が開催する「オープントーナメント四国選抜空手道選手権大会」が第12回を数えることとなり、その歴史の長さ、愛媛県警察極真空手部にとって非常に誇らしいことであると思っております。

今年は、県内外から500人以上の選手が出場すると聞いております。まさに、「栄えある大会」となっておりますが、これは、本大会が、初級者や大会出場経験の少ない選手が同じレベルの選手と試合ができるようにクラス分けされており、本大会を機に組手試合に挑戦できるようにしていることが大きな要因と思います。まさに、戸田代表師範が日頃から追求されている、よりよい大会を目指し、「出場選手のために何ができるか」を求めた結果だと思っております。

また、これまで同様、「全日本少年少女空手道選手権大会(グランドチャンピオン大会)」の出場権が付与される大会であることから、グランドチャンピオン大会を目指し、全国から強豪選手が集う大会となっているほか、一般上級、壮年も全日本大会で活躍する選手が出場するレベルの高い大会となっております。

愛媛県警察極真空手部は、戸田代表師範を最高責任者及び終身名誉顧問と位置づけ、指導を受けており、今大会にも、私を含め、審判、スタッフとして、微力ながら支援をさせていただいております。

終わりに、本大会の成功と、参加選手全員の健闘をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。押忍

KYOKUSHIN KARATE

◇ 大会役員 ◇

大会会長
大会運営委員長
大会来賓

大会評議員委員長
大会評議員

大会ドクター
大会医療班

司会
大会運営委員

井上秀明
戸田美智男
塩崎彰久
松尾和久
原俊二
向井正知
小澤和樹
田畑繁
桑島靖寛
山下武範
岡田秀幸
山本孝
佐藤智明
堀隆之
宗政佑
天野芳夫
奥野和年
齊藤章順
坂山憲史
日野雅子
片岡希美
穂木真美
らくさぶろう
丹下英人
石崎洋一
福岡嘉浩
東本元司
橋内信夫
堀作典員
寒井敦史
濱野弘昭
杉田正志
楠谷伸
烏原敏行
神賀賢一
志津信二
高寒智美
野島悠伺
有馬寿也
白石将博
渡部正晴
村上敦
荒牧基尚
山学
松木三斗
櫻井隼斗

新日本建設(株) 代表取締役会長
(一社) 極真会館 愛媛県戸田道場代表師範
衆議院議員
愛媛県議会議員
松山市議会議員
愛媛銀行 常務取締役
今治市教育長
(一社) 極真会館理事長(山形県総本部師範)
(一社) 極真会館理事(香川県本部師範)
(一社) 極真会館宮崎県山下道場師範
(一社) 極真会館幹事(関西総本部部長)
(一社) 極真会館関西総本部師範
(一社) 極真会館関西総本部師範
(一社) 極真会館広島県宗政道場代表
(一社) 極真会館東京足立荒川天野道場代表
(一社) 極真会館兵庫県奥野道場代表
(一社) 極真会館佐藤道場島根県出雲支部長
南松山病院副院長(整形外科)
看護師
看護師
看護師
愛媛県警極真空手道部部长
愛媛県警極真空手道部顧問(元警察本部刑事部長)
愛媛県警極真空手道部副部长
愛媛県警極真空手道部副部长
愛媛県警極真空手道部OB会会長
愛媛県警極真空手道部OB会副会长
極真会館愛媛県戸田道場師範代(愛媛県消防極真空手道部部长)
極真会館愛媛県戸田道場首席師範代(新居浜上部・川西支部支部長)
極真会館愛媛県戸田道場首席師範代(松山空港通支部支部長)
極真会館愛媛県戸田道場師範代(松山三津・味生支部支部長)
極真会館愛媛県戸田道場師範代(松山三津・味生支部支部長)
今治支部・松山鷹子・松山小野支部支部長
西条・西条氷見支部支部長
新居浜川東・高津支部支部長
松山味酒支部支部長
西予宇和・明浜支部支部長
西予支部支部長
新居浜川東・高津支部副支部長
松山鷹子支部副支部長
松山空港通支部副支部長
松山空港通支部副支部長
今治支部副支部長
新居浜上部・川西支部副支部長
戸田道場黒帯会会長



KYOKUSHIN KARATE

◇ 極真会館全国審判団 ◇

□他府県極真会館審判

天野芳夫（東京都）、二宮快地（京都府）、山本孝（大阪府）、堀孝之（大阪府）、佐藤智明（大阪府）、松本宗幸（大阪府）、羽根有二（大阪府）、高原将太（大阪府）、奥野和年（兵庫県）、齊藤章順（島根県）、尾上仁郎（香川県）、小笠原慎吾（香川県）、平山浩二（香川県）、松本薫樹（香川県）、田中英二（香川県）、西山静香（香川県）、佐々木郁美（香川県）、宗政佑（広島県）、荒木慎悟（広島県）、瀬田英俊（広島県）、山下武範（宮崎県）

□極真会館愛媛県戸田道場審判

橋本司（県警）、石崎洋一（県警）、堀内信夫（県警）、西岡大輔（県警）、渡部正晴（県警）、丹下英人（県警）、石川瑚乃美（県警）、寒作典員（県消防）、濱井敦史（新居浜市）、高津信二（新居浜市）、矢野一志（新居浜市）、志賀賢一（西条市）、田中雅志（今治市）、藤原弘之（今治市）、杉野弘昭（松山市）、楠田正志（松山市）、烏谷伸（松山市）、宮崎小織（松山市）、玉井祐子（松山市）、伊藤友紀子（松山市）、東悠樹（松山市）、荒牧基尚（松山市）、村上敦（松山市）、荒牧優翔（松山市）、岡田真治（松山市）、中野結翔（松山市）、兵頭佑哉（松山市）、有馬寿也（西予市）

◇ 参 加 流 派 ◇

□一般社団法人極真会館

極真会館東京都足立荒川天野道場、極真会館東京都城西三和道場、極真会館関西総本部、極真会館兵庫県奥野道場、極真会館岡山県中川道場、極真会館広島県宗政道場、極真会館東京佐藤道場島根県支部、極真会館香川県桑島道場、極真会館熊本県早田道場

□他府県各流派（五十音順）

一円会館（大阪府）、極真会館全極真米山道場（大阪府）、極真会館中村道場（兵庫県）、極真会館長谷場派前田道場（兵庫県）、空研塾西田道場（大阪府）、志成館（広島県）、志道会館（岡山県）、修士館大元支部（岡山県）、志琉会（広島県）、真煌会館（高知県）、真正会郷田道場（兵庫県）、慧昇會（山口県）、聖空会山本道場（徳島県）、正道会館大河道場（奈良県）、正道会館戸田道場（高知県）、聖武会（大阪府）、破道会館（大阪府）、武煌会館（広島県）、誠錬會坂原道場（岡山県）、無門塾（香川県）

□愛媛県内各流派（五十音順）

芦原会館今治支部（今治市）、芦原会館四国中央支部（四国中央市）、芦原会館本部（松山市）、敬心館（四国中央市）、拳剛会館本部（新居浜市）、拳剛会館松山支部（松山市）河野道場（松山市）、国際如水会館（松山市）、志長會（西条市）、正道会館 E-FCS フジグラン松山（松山市）、正道会館 KCIEL（新居浜市）、正道会館宇和島支部（宇和島市）、正道会館北宇和島教室（宇和島市）、正道会館四国本部（松山市）、正道会館フィッタエミフル MASAKI（松前町）、正道会館フィッタ重信（東温市）、正道会館和気支部（松山市）、大心会館（松山市）、道真会館本部（砥部町）、道真会館松本道場（松前町）、中元会館（松山市）、福田道場（新居浜市）、武道塾（東温市）、悠心道場（松山市）、吉村道場（宇和島市）

KYOKUSHIN KARATE

◇試合時間及びルール◇

★試合時間

上級の部の試合時間

	本戦	延長戦	体重判定	再々延長戦
幼 年 の 部 小 学 生 各 部 中 学 生 各 部 高 校 生 各 部	1分30秒	1分 (マスト方式)	なし	なし
壮年男子上級の部 軽中量級	2分	2分	3kg以上差	1分 (マスト方式)
壮年男子上級の部 重量級	2分	2分	5kg以上差	1分 (マスト方式)
一般女子上級の部	2分	2分 (マスト方式)	なし	なし
一般男子上級の部 軽中量級	2分 3分(決勝戦のみ)	2分	3kg以上差	2分 (マスト方式)
一般男子上級の部 重量級	2分 3分(決勝戦のみ)	2分	5kg以上差	2分 (マスト方式)

※一般男子上級の部は決勝戦のみ本戦試合時間が3分になります。

ファースト、セカンドの試合時間

	本戦	延長戦	体重判定	再々延長戦
幼 年 の 部 小 学 生 各 部 中 学 生 各 部 高 校 生 各 部 壮 年 女 子 ・ 男 子 一 般 女 子 ・ 男 子	1分30秒	1分 (マスト方式)	なし	なし

★試合ルール

国際空手道連盟ルールに従うものとする。

○勝者 一本勝ち、判定勝ち、相手の反則ないし失格によって決める。

【技あり】

○反則箇所を除く部分への突き、蹴りなどのダメージにより一時的に動きが止まったとき、または大きく崩れた場合。

○足掛け、または前蹴りや下段の合わせ技で相手をきれいに倒し、下段突きを決めた時。

【一本】

○反則箇所を除く部分への突き、蹴りなどのダメージで相手を倒し 3 秒以内に立ち上がれなかった時、戦意を喪失した時、相手の攻撃を受けて戦うことが不可能と審判が判断した時。

○「技有り」を 2 本取った時。

【反則】

○手による顔面への攻撃、金的攻撃、つかみ、倒れた相手への攻撃、関節蹴り、後ろからの攻撃等。

【判定】

○一本勝ち、失格がない場合は、主審、副審のうち過半数の審判の判定で決める。判定が決まらない場合は延長戦、もしくは体重判定を行う。

【防具】

一般男子上級の部：ファールカップ

高校生以上女子の部：ヘッドギア、すねサポーター、拳サポーター、チェストガード

上記以外の部：ヘッドギア、すねサポーター、拳サポーター、ファールカップ（男子）、チェストガード（小学 4 年生以上女子）



KYOKUSHIN KARATE

国際空手道連盟 一般社団法人極真会館 愛媛県戸田道場支部一覧表

道 場 名	責 任 者	所 在 地
松 山 潮 見 本 部	戸田 美智男	松山市谷町 ゆとりあ温泉横
戸田道場修練所	戸田 美智男	松山市港山町 オオノ開発(株)マリーナ内
西 条 支 部	志賀 賢一	西条市周布 東予体育館格技場
西 条 氷 見 支 部	志賀 賢一	西条市橘公民館2階
新居浜川東支部	高津信二・白石将博	新居浜市神郷公民館2階
新居浜高津支部	高津信二・白石将博	新居浜市高津公民館2階
新居浜上部支部	濱井敦史・松木洋三	新居浜市北内町3丁目11-24
新居浜川西支部	濱井敦史・松木洋三	新居浜市 惣開公民館
今 治 支 部	神原敏行・山下学	今治市常盤町8丁目 アミカルカルチャーサロン
松 山 味 酒 支 部	寒作 智美	松山市味酒公民館体育室
松山空港通支部	杉野弘昭・村上敦・荒牧基尚	松山市空港通り3丁目 新日本建設3階
松 山 三 津 支 部	楠田正志・烏谷伸	松山市港山町 戸田道場修練所
松 山 味 生 支 部	楠田正志・烏谷伸	松山市別府町 御産所集会所
松 山 鷹 子 支 部	神原敏行・渡部正晴	松山市鷹子公民館
松 山 小 野 支 部	神原 敏行	松山市小野公民館2階
本部直轄大洲警察署空手教室	戸田美智男・野島悠伺・有馬寿也	大洲市東大洲 大洲警察署武道場
本部直轄内子支部	戸田美智男・野島悠伺・有馬寿也	内子町五百木 内子スポーツセンター
西 予 宇 和 支 部	野島悠伺・有馬寿也	西予市宇和町 中川地域づくり活動センター2階ホール
西 予 明 浜 支 部	野島 悠伺	西予市明浜町 明浜支所 旧高山小学校体育館
愛媛県警察極真空手道部	丹下 英人	松山潮見本部
愛媛県消防極真空手道部	寒作 典員	松山潮見本部
松山学院高等学校極真空手道部	岡田 真治	松山市北久米 松山学院高校体育館



本部事務局

TEL 089-951-0569

ホームページ

<http://ehimekentoda.wix.com/kyokushin>

松山潮見本部

極真会館愛媛県戸田道場の歩み

- 昭和 51 年 4 月 戸田師範愛媛県警奉職（主に刑事警察、生活安全警察）
- 昭和 61 年 松山東署、伯方署、三島署（現四国中央署）、新居浜署に
- ～平成 17 年 極真空手部 開設
- 平成 5 年 4 月 愛媛県警極真空手道部結成（以後会員総数約 230 人）
- 平成 8 年 10 月 大洲警察署少年空手教室 開設
- 平成 9 年 3 月 第一回大洲少年空手道大会開催（以後 25 回開催）

大会の写真



- 平成 12 年 4 月 潮見道場（現本部道場）開設
- 平成 19 年 4 月 愛媛県警察学校空手部創設（課外授業）以降 3 年間 87 人参加
- 平成 23 年 4 月 戸田師範大洲警察署長就任
- 平成 24 年 4 月 同 愛媛県警察本部刑事部参事官就任
- 平成 24 年 5 月 一般社団法人国際空手道連盟極真会館 愛媛県戸田道場設立～以降20支部、組織加盟
- 平成 25 年 10 月 第 1 回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会開催
- 12 月 戸田師範 5 段審査合格（極真技術審査機構）公認師範となる
- 平成 28 年 2 月 戸田師範 一般社団法人国際空手道連盟 極真会館理事就任
- 平成 29 年 3 月 新居浜上部支部、松山三津支部 開設
- 平成 30 年 3 月 松山鷹子支部開設
- 令和 元 年 4 月 松山味生支部開設
- 令和 2 年 1 月 戸田師範 6 段審査合格（極真技術審査機構）
- 令和 3 年 10 月 新居浜高津支部、新居浜川西支部、西条氷見支部開設
- 令和 5 年 3 月 内子支部、西予宇和支部開設
- 令和 6 年 2 月 戸田師範一般社団法人国際空手道連盟極真会館副理事長就任
- 令和 6 年 4 月 松山小野支部開設
- 令和 6 年 8 月 戸田道場修練所開設
- 令和 7 年 5 月 西予明浜支部、松山学院高校極真空手道部開設

秋合宿集合写真





注目選手 ～四国最強を目指して～

(一般男子上級の部 軽中量級)

三上 和久 極真会館愛媛県戸田道場

災害から市民を守るために常日頃から厳しい訓練を行っている消防官。

そして、その消防官の中から選抜された精鋭部隊『特別救助隊』として市民の生命・身体・財産を守るために搭載された強靱な肉体と精神力は常人の想像を遥かに凌駕する。

昨年は四国選抜空手道選手権大会一般男子上級の軽中量級で念願の優勝を果たし、一般男子上級の部では、軽中量級と重量級の頂点を兄弟で制覇するという偉業を成し遂げた。

消防組織における日本の最強クラスの空手家が起動した際に、その進撃を止めることができるのか。



[主な戦歴]

- 第27回香川県空手道選手権大会 一般男子上級の部 優勝
- 第10回四国選抜空手道選手権大会 一般男子上級の部 準優勝
- 2024愛媛国際親善空手道大会 一般男子上級の部 優勝
- 第11回四国選抜空手道選手権大会 一般男子上級の部軽中量級 優勝

(一般男子上級の部 軽中量級)

松井 弥陸 極真会館愛媛県戸田道場

昨年の本大会では、松井弥陸が卓越した反応力を存分に発揮したものの、三上和久の多彩かつ鋭い攻撃にわずかに及ばず、悔しさの残る結果となった。今年は鍛え抜いた実力を武器に、雪辱を果たす構えを見せる。リベンジに燃える松井弥陸の戦いぶりに注目が集まる。

さらに今大会には、弟の松井瞭誠も参戦。三上兄弟の対決を超えるような、松井兄弟による激突が実現するのか、熱戦の火蓋が切られる。



[主な戦歴]

- 第8回四国選抜空手道選手権大会 一般男子上級の部 優勝
- 第9回四国選抜空手道選手権大会 一般男子上級重量級の部 優勝
- 第39回ウェイト制全日本空手道選手権大会 一般男子軽量級 第3位
- 第10回四国選抜空手道選手権大会 一般男子上級の部 第3位

注目選手 ～四国最強を目指して～

(一般男子上級の部 重量級)

三上 汰明 極真会館愛媛県戸田道場

大学生として学業に専念する中、空手の稽古を怠らない文武両道の空手家。

また、身体能力の高さや、空手の才能に関しては兄である消防最強クラスの三上和久選手から「弟の方がもっと強い」と言わしめる能力の持ち主。

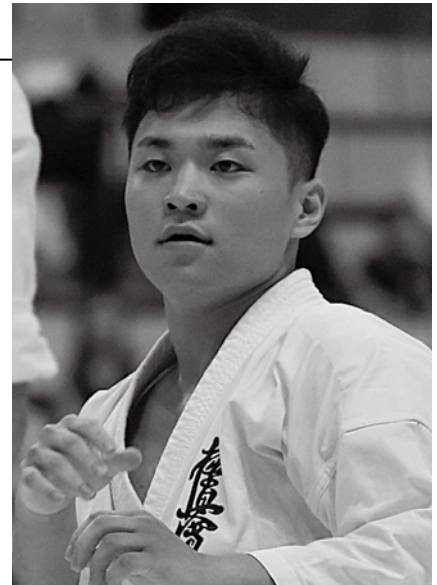
その能力については、一つ一つの攻撃が規格外の武器であり、体に被弾した選手の顔はゆがみ、屈強な空手家が苦痛に耐えきれない場面も見受けられることから、その小さな体から繰り出す技の全ての攻撃が、常識を逸脱した破壊力であることを容易に予想させる。

昨年は四国選抜空手道選手権大会一般男子上級の部重量級で念願の優勝を果たし、一般男子上級の部では、軽中量級と重量級の頂点を兄弟で制覇するという偉業を成し遂げた。

兄弟で2連覇という前人未踏の目標を掲げ、小さな巨人が動き出す。

[主な戦歴]

- 第27回香川県空手道選手権大会 一般男子上級の部 準優勝
- 第10回四国選抜空手道選手権大会 一般男子上級の部 第3位
- 2024愛媛国際親善空手道大会 一般男子上級の部 準優勝
- 第11回四国選抜空手道選手権大会 一般男子上級の部重量級 優勝



(一般男子上級の部 重量級)

櫻井 隼斗 極真会館愛媛県戸田道場

2年ぶりの出場となる世界大会元日本代表選手。

その体に搭載されたパワー、スタミナ、スピード、テクニックは規格外であり、過去の四国選抜大会においては圧倒的な実力で幾度も上位進出を果たしている。

武運に恵まれず、これまではあと一歩ところで優勝には届いてはいないが復帰戦となる今回、更なる進化を遂げて悲願の初優勝を目指す。

また、父親となって初めて迎える大会でもあり、これまでとは違った覚悟と責任感を胸に臨む一戦。

経験と実力を兼ね備えたその戦いぶりに注目がかかる。

[主な戦歴]

- 第25回香川県大会優勝
- 第8回、9回四国選抜大会準優勝
- 第38回全日本ウェイト制空手道選手権大会 一般男子重量級ベスト8
- 第5回極真連合杯世界空手道選手権大会日本代表





注目選手 ～四国最強を目指して～

(一般女子上級の部)

小山 晴渚 極真会館愛媛県戸田道場

香川が誇る伝説の空手家である桑島師範が幼少のころから才能を見出し育成し、そして大学進学と共に愛媛の戸田師範のもとで心身を修練する四国女子フルコンタクト空手界の光華が参戦。

純粹に強さを探求することで得た、その組手スタイルには破壊神が宿り、只々、目の前の対戦者が無慈悲に蹴散らされることが見受けられる。

近年では2024愛媛国際親善空手道大会に出場し、並みいる海外の選手を抑えて優勝。また、香川県大会2連覇の実績から四国最強と称される選手である。

極真香川と極真愛媛の力が融合した『四国の最終兵器』が、全国トップクラスの強豪が集う本大会でどのような戦いが繰り広げられるかが注目される。

愛媛県武道館に集結した、全国各地で輝く最強クラスの「華」達の頂で「桜花爛漫」となることができるのか。



[主な戦歴]

2024愛媛国際親善空手道大会 優勝
第28回香川県空手道選手権大会 優勝
第29回香川県空手道選手権大会 優勝

(一般女子上級の部)

渡部 はるあ 悠心道場

九州最強空手家が参戦。

数々の全日本大会での入賞歴、また、活動拠点である九州の戦歴から全日本最強クラスの一人に数えられる空手家である。

小さな体から繰り広げられる弾丸のような威力の打撃と切れ味のある蹴り、多彩な技術、そしてそれらを生かす超絶スピードとスタミナは彼女の組手スタイルを完全無欠のものに昇華させている。

なお、四国選抜空手道選手権大会の一般女子上級の部においての優勝経験もあり、当時からの更なる飛躍を示す大会になる事が予想される。

進化し続ける悠心道場の最高傑作が愛媛県武道館に再び降臨する。



[主な戦歴]

第8回四国選抜空手道選手権大会 一般女子上級の部 優勝
第7回JFKO全日本フルコンタクト空手道選手権大会 女子軽中量級 第3位
第2回JFKO国際大会 女子軽中量級 準優勝

注目選手 ～四国最強を目指して～

(壮年男子上級の部 軽中量級)

山下 学 極真会館愛媛県戸田道場

得意技の膝蹴りを活かし、少しずつ結果を積み重ねてきた壮年選手。今年、式段を取得し、さらなる成長を目指して日々稽古に励んでいる。第10回四国選抜大会では壮年男子軽中量級で優勝、第11回大会では準優勝と着実に実績を重ねている。香川県大会では第3位入賞、全日本大会では男子シニア軽量級で準優勝という成績を収めた。

破壊力ある膝蹴りで相手の動きを封じる戦いぶりは、観客の目を引く。今大会でもその得意技を武器に、一戦一戦を大切にしながら優勝を目指す。



[主な戦歴]

第10回オープントーナメント四国選抜空手道選手権 壮年男子の部軽中量級 優勝
第11回オープントーナメント四国選抜空手道選手権 壮年男子の部軽中量級 準優勝
第28回香川県空手道選手権大会 壮年の部A(38～49歳) 第3位
第3回全日本極真空手同選手権大会【男子シニア(40～47歳) 軽量級】 準優勝

(壮年男子上級の部 軽中量級)

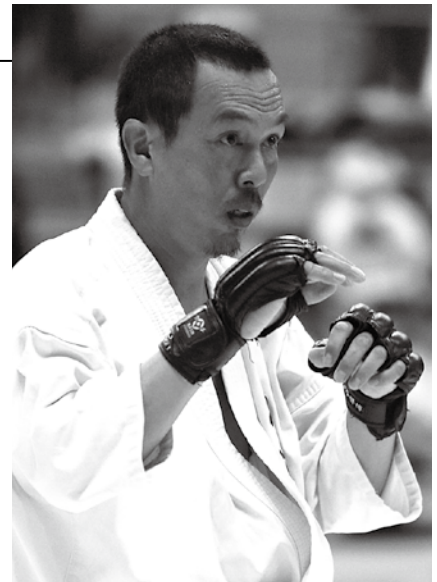
白石 将博 極真会館愛媛県戸田道場

層の厚い戸田道場の男子壮年の部を代表する強豪選手の一人。

昨年の第11回四国選抜大会では、惜しくも3位という結果に終わったがその悔しさをバネに、今年5月に行われた第29回香川県大会壮年の部(38～49才)では見事、優勝に輝いている。

年齢を重ねるたびに強くなっていく選手で、来年には全日本大会への挑戦も視野に入れている。

持ち前の気迫を前面に出した闘志溢れる戦いで、今大会は念願の初優勝を目指す。



[主な戦歴]

第11回四国選抜空手道選手権大会 壮年男子の部軽中量級 第3位
第29回 香川県空手道選手権大会 壮年男子の部A 優勝



注目選手 ～四国最強を目指して～

(壮年男子上級の部 重量級)

神原 敏行 極真会館愛媛県戸田道場

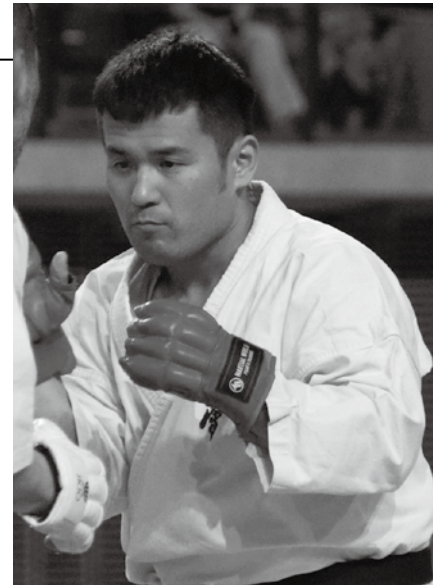
今治・鷹ノ・小野の3支部を兼任し、日々多くの道場生の指導にあたる一方、自らの稽古も決して怠らない神原選手が、壮年男子上級重量級に登場する。

過去には第2回全日本大会準優勝、第3回全日本大会第3位と、安定した戦績を残し、昨年8月に開催された第1回アジア大会では体重を85kgから75kgまで絞り込み、厳しい減量と過酷なトレーニングを乗り越えて準優勝を果たした。

圧倒的なフィジカルとパワーで前に出る攻めの空手が持ち味で、海外の強豪選手とも互角に渡り合う実力者。

11月にはオーストラリアでのワールドカップ出場も控えており、今回の四国選抜大会はその前哨戦とも言える重要な一戦だ。

選手として、また指導者としての誇りを胸に、激戦区を勝ち抜く姿に注目が集まる。



[主な戦歴]

- 第2回全日本大会 男子シニア重量級(40歳～47歳) 準優勝
- 第3回全日本大会 男子シニア重量級(40歳～47歳) 第3位
- 第1回アジア大会 男子シニア75^{kg}未満(41歳～49歳) 準優勝

(壮年男子上級の部 重量級)

松木 洋三 極真会館愛媛県戸田道場

昨年の大会で見事3年ぶりに優勝を果たし、5月の香川県大会決勝戦では、過去勝ったことがない壮年部のレジェンド早田信選手(熊本早田道場師範)を本戦で破り、リベンジを果たした。またその勢いで7月のウェイト制全日本でも、強豪選手を破ってのベスト8入賞と大健闘を見せた。

これまでの経験と自信から組手にも余裕ができ、パワーのみに頼らず、駆け引きや技術面での進歩も見られ、老練な戦士はさらに進化を続けている。地元で開催される四国選抜大会での2連覇を確実に、日々の稽古に余念がない。



[主な戦歴]

- 第1回全日本極真空手選手権大会 男子シニア(48～59歳) 重量級 第3位
- 第5回世界空手道選手権大会 日本代表
- 第10回四国選抜空手道選手権大会 壮年男子の部 重量級 準優勝
- 第11回四国選抜空手道選手権大会 壮年男子の部 重量級 優勝
- 第29回香川県空手道選手権大会 壮年の部B(50歳以上) 優勝
- 第41回ウェイト制全日本空手道選手権大会 壮年男子(50～59歳)重量級の部 ベスト8

試合場

～正面～

Bコート

(正面向って左)

- 中学生女子セカンド
- 中学生男子セカンド
- 高校生男子セカンド
- 一般男子セカンド
- 壮年男子セカンド
- 幼年男子上級の部
- 小学1年生女子上級の部
- 小学1年生男子上級の部
- 小学2年生女子上級の部
- 小学2年生男子上級の部
- 小学3年生女子上級の部
- 小学3年生男子上級の部軽量級
- 小学3年生男子上級の部重量級
- 小学4年生女子上級の部
- 小学4年生男子上級の部軽量級
- 小学4年生男子上級の部重量級
- 小学5年生女子上級の部
- 小学5年生男子上級の部軽量級
- 小学5年生男子上級の部重量級
- 小学6年生女子上級の部

Aコート

(中央前)

- 小学6年生男子上級の部軽量級
- 小学6年生男子上級の部重量級
- 中学1年生女子上級の部
- 中学1年生男子上級の部軽量級
- 中学1年生男子上級の部重量級
- 中学2・3年生女子上級の部
- 中学2・3年生男子上級の部軽量級
- 中学2・3年生男子上級の部重量級
- 高校生女子上級の部軽量級
- 高校生男子上級の部軽量級
- 高校生男子上級の部重量級
- 壮年男子上級の部軽中量級
- 壮年男子上級の部重量級
- 一般女子上級の部
- 一般男子上級の部軽中量級
- 一般男子上級の部重量級

Cコート

(正面向って右)

- 小学6年生女子ファースト
- 小学6年生男子ファースト
- 中学生女子ファースト
- 中学生男子ファースト
- 高校生男子ファースト
- 一般女子ファースト
- 一般男子ファースト
- 壮年女子ファースト
- 壮年男子ファースト
- 小学1年生男子セカンド
- 小学2年生男子セカンド
- 小学3年生女子セカンド
- 小学3年生男子セカンド
- 小学4年生女子セカンド
- 小学4年生男子セカンド
- 小学5年生女子セカンド
- 小学5年生男子セカンド
- 小学6年生女子セカンド
- 小学6年生男子セカンド

Dコート

(中央後)

- 幼年女子ファースト
- 幼年男子ファースト
- 小学1年生女子ファースト
- 小学1年生男子ファースト
- 小学2年生女子ファースト
- 小学2年生男子ファースト
- 小学3年生女子ファースト
- 小学3年生男子ファースト
- 小学4年生女子ファースト
- 小学4年生男子ファースト
- 小学5年生女子ファースト
- 小学5年生男子ファースト

表彰台・撮影台

入賞について

- 出場者数2～3人 ……優勝のみ
- 出場者数4～7人 ……優勝・準優勝
- 出場者数8人以上 ……優勝・準優勝・第3位2名

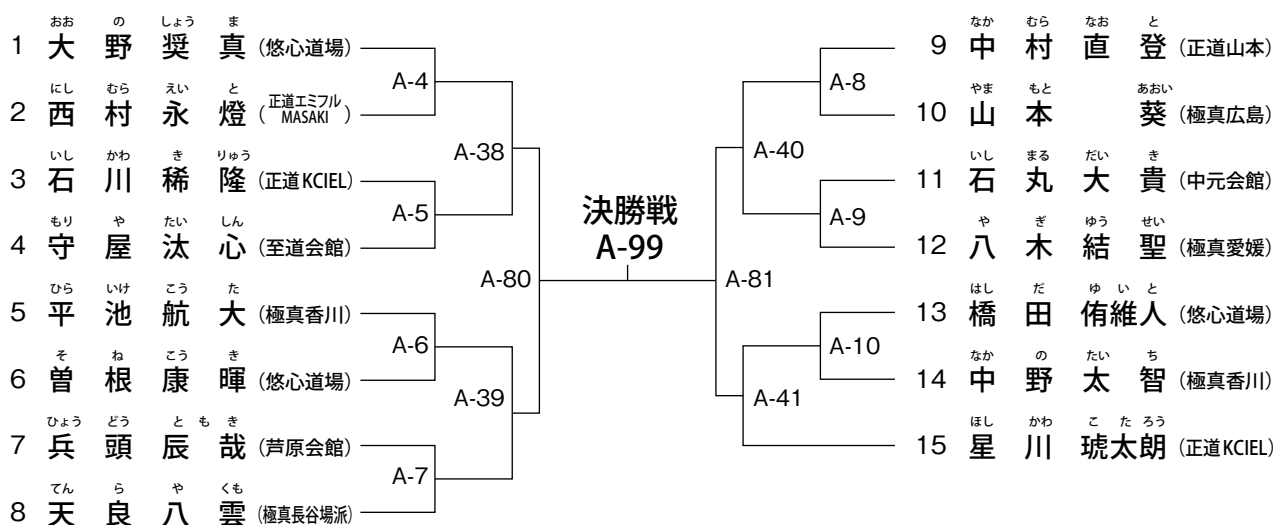
※入賞者の賞状は後日郵送します。

●試合開始 5 試合前までに各自でコートに集合してください。呼び出しは行いません。
試合に間に合わなかった場合は失格となります。

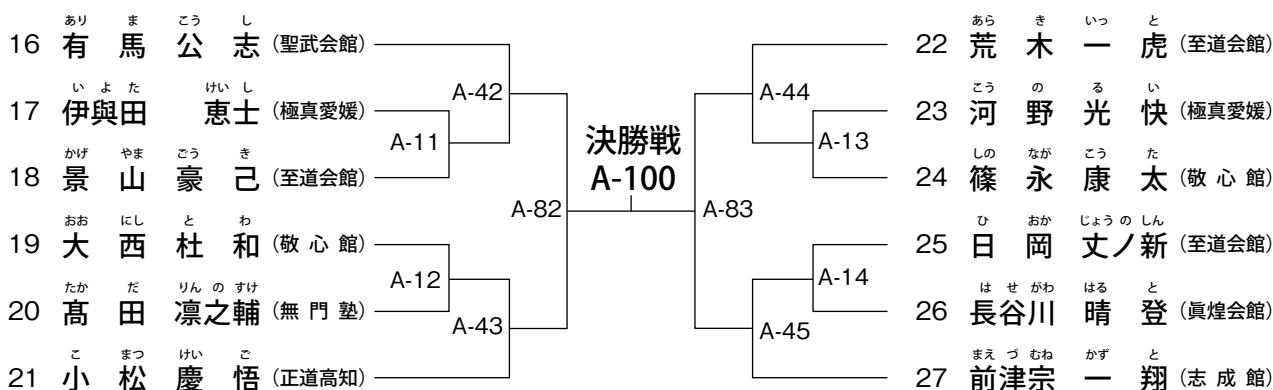


トーナメント表 Aコート (中央前)

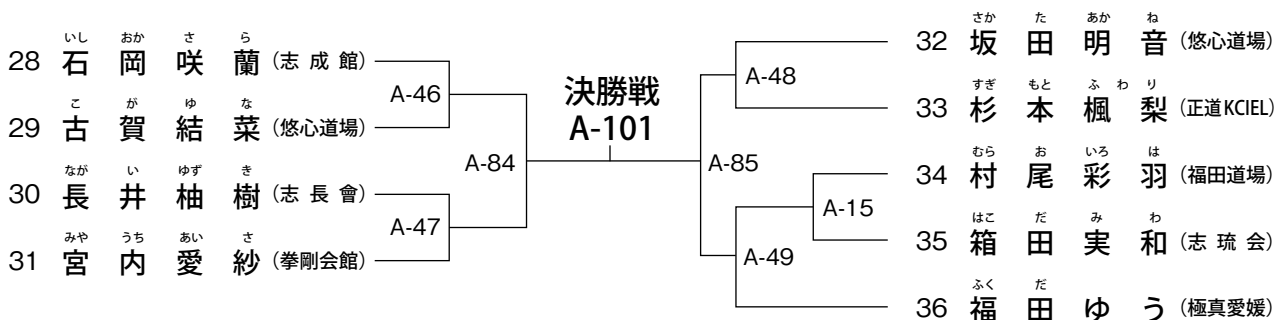
小学6年生男子 上級の部 軽量級



小学6年生男子 上級の部 重量級



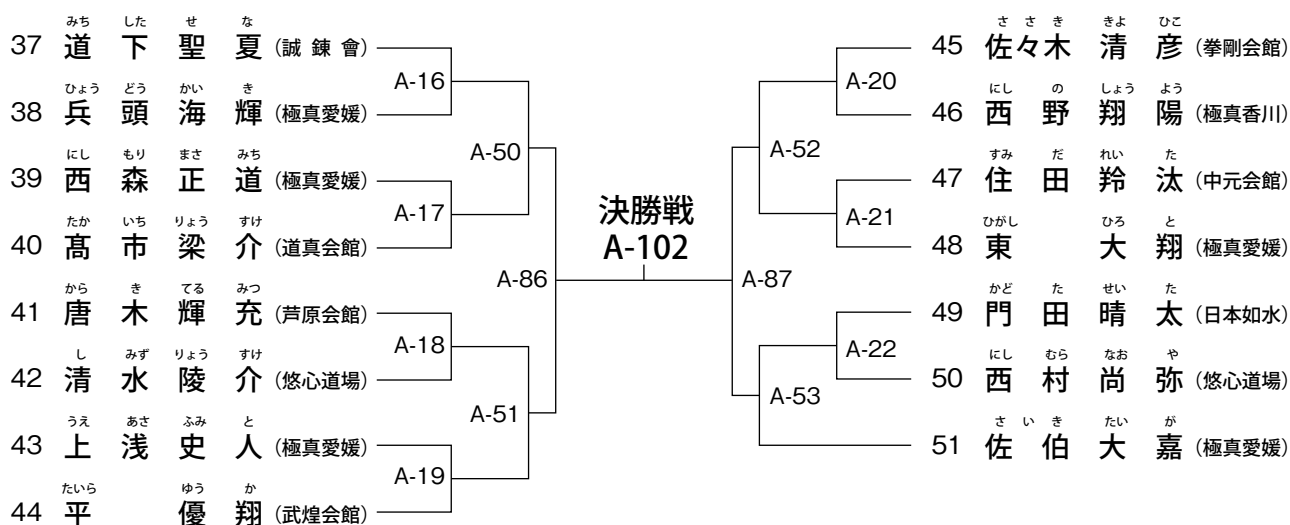
中学1年生女子 上級の部



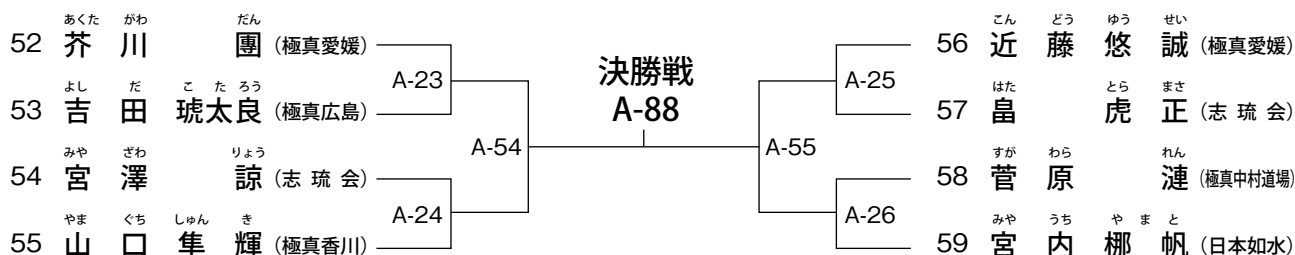
※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

トーナメント表 Aコート (中央前)

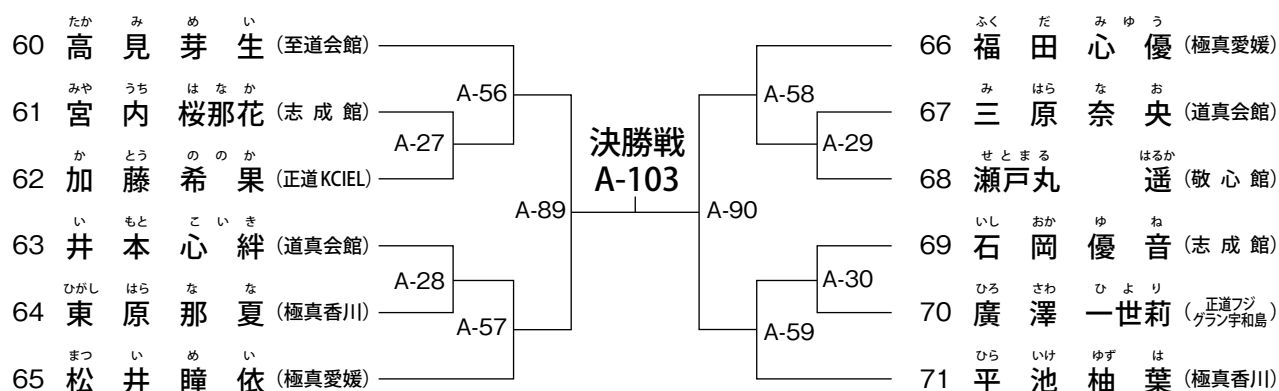
中学1年生男子 上級の部 軽量級



中学1年生男子 上級の部 重量級



中学2・3年生女子 上級の部

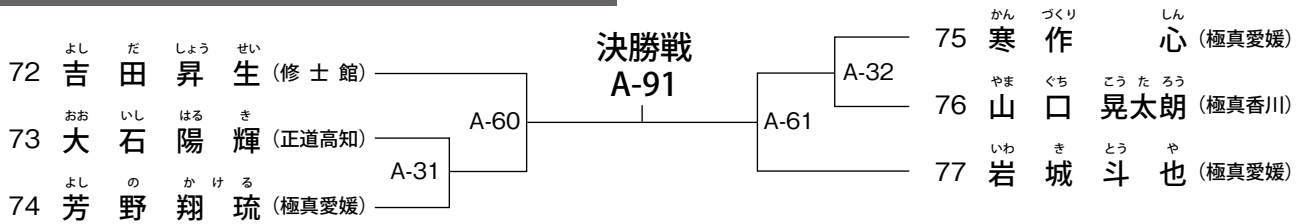


※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

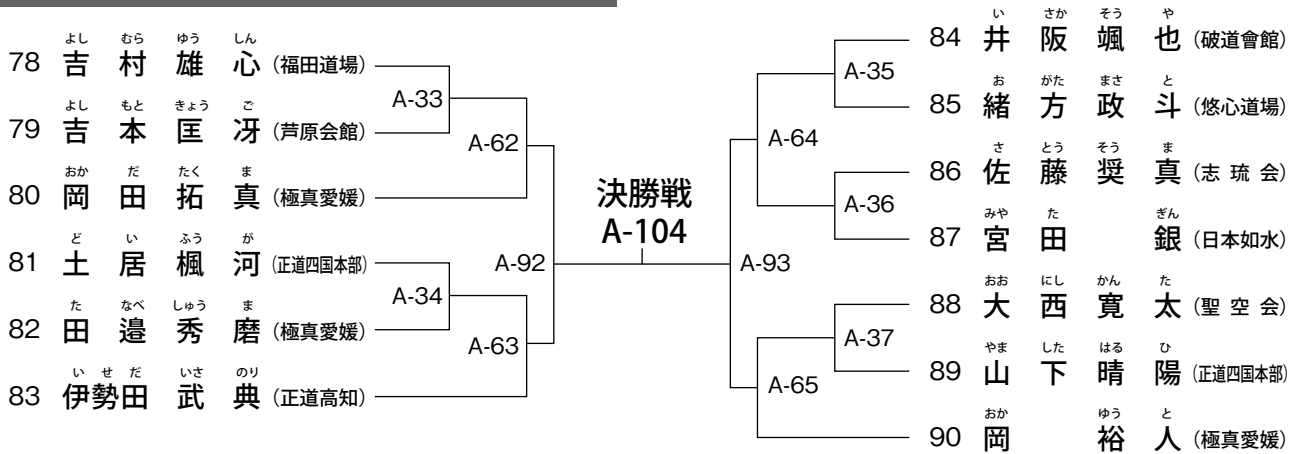


トーナメント表 Aコート (中央前)

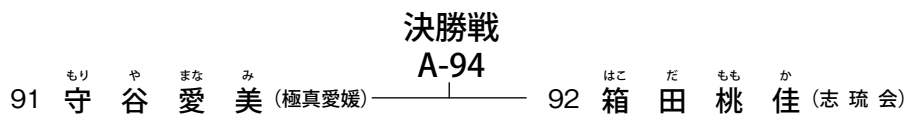
中学2・3年生男子 上級の部 軽量級



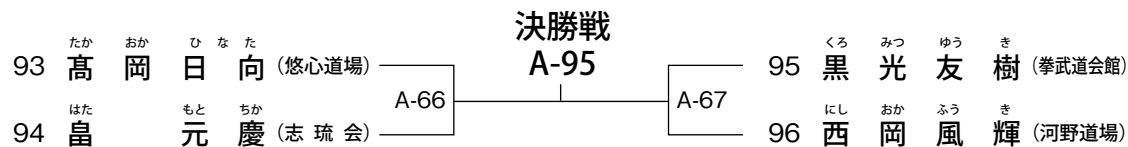
中学2・3年生男子 上級の部 重量級



高校生女子 上級の部 軽量級



高校生男子 上級の部 軽量級

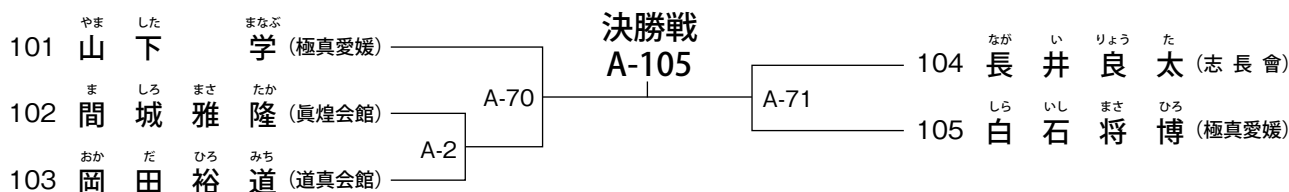


高校生男子 上級の部 重量級

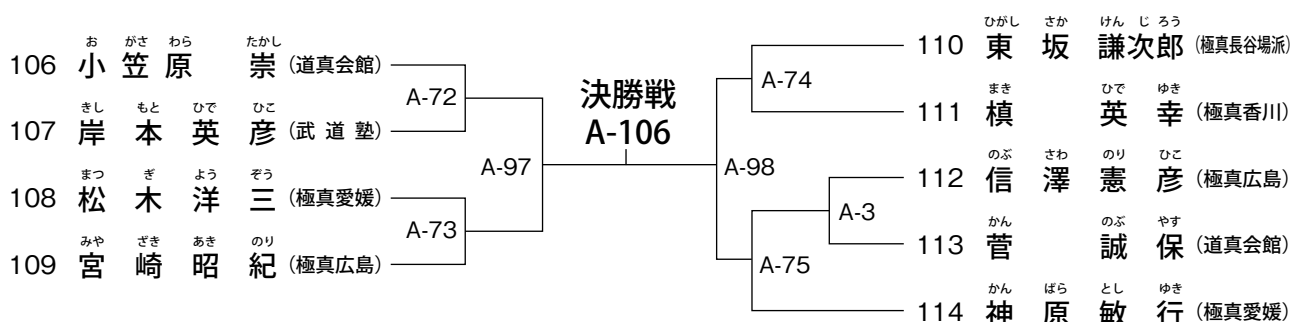


トーナメント表 Aコート (中央前)

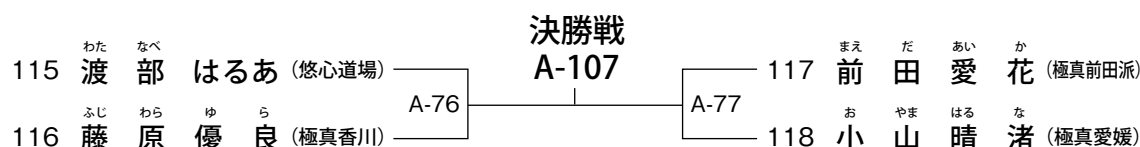
壮年男子 上級の部 軽中量級



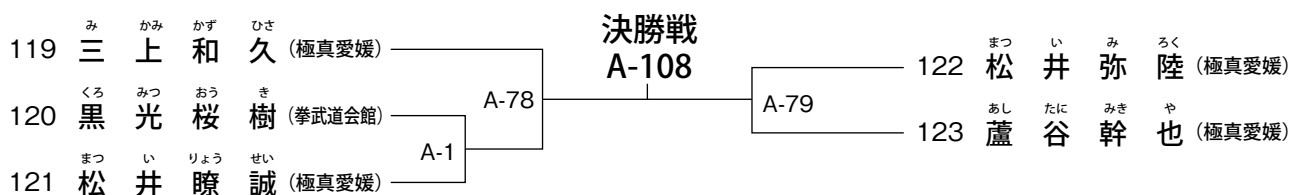
壮年男子 上級の部 重量級



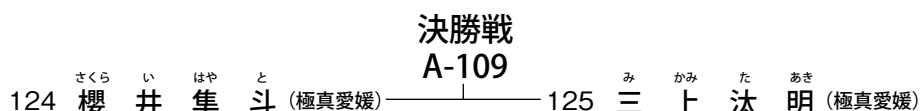
一般女子 上級の部



一般男子 上級の部 軽中量級



一般男子 上級の部 重量級



※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

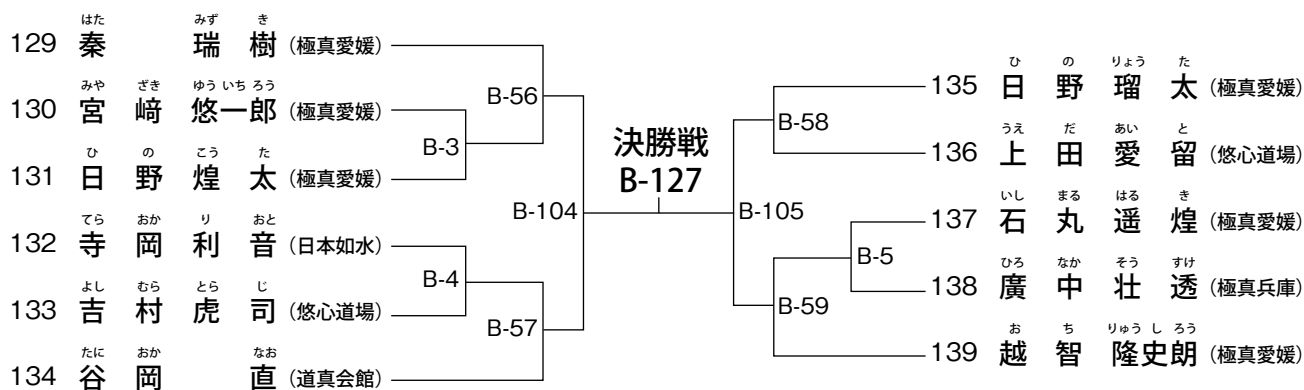


トーナメント表 Bコート (正面向って左)

中学生女子 セカンド

	126 まつ もと しゅ か 松 本 朱 華 (極真愛媛)	127 ち はら か れん 千 原 栂 恋 (極真兵庫)	128 よし の ほ の か 芳 野 穂 佳 (極真愛媛)
126 まつ もと しゅ か 松 本 朱 華 (極真愛媛)		B-55	B-103
127 ち はら か れん 千 原 栂 恋 (極真兵庫)	B-55		B-126
128 よし の ほ の か 芳 野 穂 佳 (極真愛媛)	B-103	B-126	

中学生男子 セカンド



高校生男子 セカンド



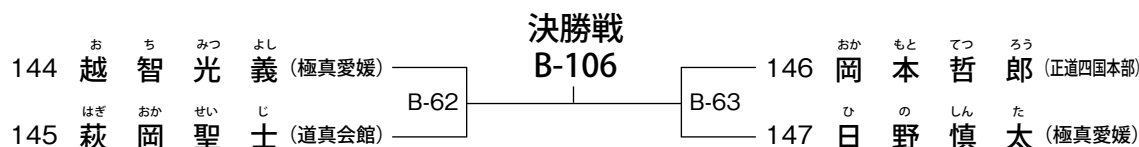
※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

トーナメント表 Bコート (正面向って左)

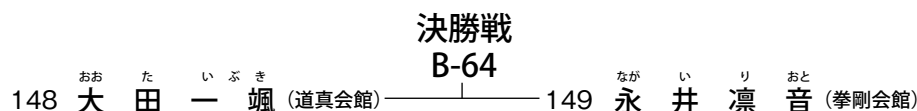
一般男子 セカンド



壮年男子 セカンド



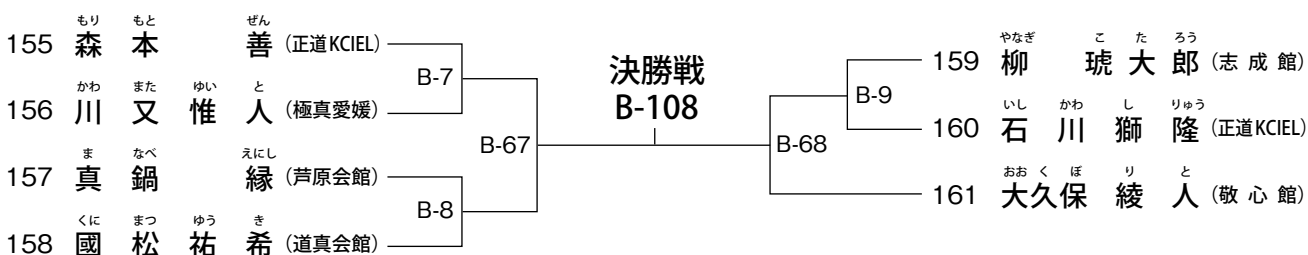
幼年男子 上級の部



小学1年生女子 上級の部



小学1年生男子 上級の部



※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤



	わ	だ	ゆり	は				かん	だ	れ	あ		
162	和	田	百合葉	(正道奈良)				165	神	田	澤	愛	(中元会館)
	い	うえ	ち	か		B-69			まつ	い	る	い	あ
163	井	上	知香	(河野道場)				166	松	井	麗希香	(正道KCIEL)	
	おおく	ほ	き	ほ		B-10			いし	かわ	すず	な	
164	大久保	希歩	(志琉会)					167	石	川	鈴七	(悠心道場)	

順位	名前	所属
168	小川将輝	(芦原会館)
169	広田剣悠	(正道KCIEL)
170	森山琥珀	(日本如水)
171	菊吉結人	(志成館)
172	栗田旭	(志長會)
173	宮田幸	(中元会館)
174	山本榎那大	(道真会館)
175	岸田颯斗	(極真関西)

順位	名前	所属
176	坂原誠人	(誠錬會)
177	中井翔咲	(正道フジ グラン宇和島)
178	北野翔己	(空研塾)
179	矢野佑吏	(極真愛媛)
180	黍田澤凪	(敬心館)
181	伊藤宗助	(正道KCIEL)
182	西岡央祐	(河野道場)

183	いわもと	るあん	岩本琉杏 (道真会館)	決勝戦 B-129	188	おかだほまれ	岡田萌希 (極真長谷場派)	
184	はせがわ	ちなつ	長谷川千夏 (真煌会館)		B-77	189	こもださな	蒺田紗菜 (悠心道場)
185	はしもと	すずな	橋本紗奈 (志成館)		B-19	190	ふじかわじゅん	藤川純七 (大会館)
186	わだ	せんじゅ	和田千珠 (極真愛媛)		B-112	191	いそやま	磯山雅 (極真岡山)
187	まえだ	ひまり	前田一愛莉 (慧昇会)		B-76	192	ひおかさくらこ	日岡桜子 (至道会館)
				B-113				
					B-20			
					B-78			

24

トーナメント表 Bコート (正面向って左)

小学3年生男子 上級の部 軽量級

193	あん	どう	さく	(拳剛会館)	B-21	決勝戦 B-114	B-23	197	こ	まつ	そう	い	(一円会館)	
194	お	ち	れん	と				(芦原会館)	198	なか	むら	まさ	と	(正道フジ グラン宇和島)
195	おお	にし	しょう	た	(国際如水)		B-22	B-24	199	の	もと	りゅう	しん	(極真愛媛)
196	ひ	の	しょう	た	(極真愛媛)				200	のり	まつ	よし	みつ	(正道エミフル MASAKI)

小学3年生男子 上級の部 重量級

201	かた	おか	かい	せい	(極真愛媛)	B-81	決勝戦 B-130	B-83	207	ほり	かわ	たい	しん	(極真愛媛)	
202	たか	た	しん	(無門塾)	208				いけ	の	うち	かつ	き	(正道奈良)	
203	とよ	た	ひろ	や	(拳剛会館)	B-25		B-27	209	なか	しま	そう	た	(志成館)	
204	みや	した	さく	と	(正道山本)				210	たか	す	か	や	まと	(極真愛媛)
205	の	もと	つき	とら	(極真愛媛)	B-26		B-84	211	や	の	さく	と	(拳剛会館)	
206	なか	むら	まさ	むね	(極真東京城西)										

小学4年生女子 上級の部

	わ	だ	すず	な	(極真愛媛)					ふく	とみ	あおい	
212	和	田	鈴	奈						215	福	富	葵 (大心会館)
213	はら	こ	こ	ろ	(正道KCIEL)	B-85	決勝戦 B-117	B-29		いし	まる	あおば	(大心会館)
										216	石	丸	
214	かげ	やま	もも	は	(至道会館)	B-28		B-86		いし	かわ	いち	か
	景	山	桃	羽						217	石	川	一 花 (悠心道場)

小学4年生男子上級の部 軽量級

218	いの	うえ	そう	し	(極真愛媛)	B-30	決勝戦 B-118	B-32	222	なか	がわ	かん	た	(極真香川)	
219	お	ち	ゆい	と	(芦原会館)				223	ふじ	た	あい	し	(正道KCIEL)	
220	もり	かわ	しゅん	と	(正道エミフル MASAKI)	B-31		B-88	224	かん	だ	れん	せ	(中元会館)	
221	くに	まつ	み	な	と	(道真会館)									

※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

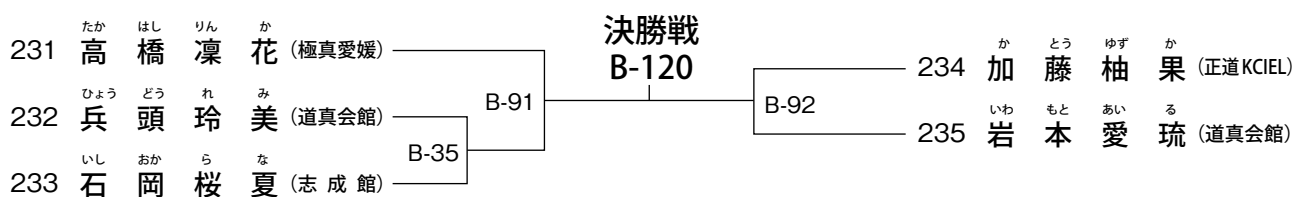


トーナメント表 Bコート (正面向って左)

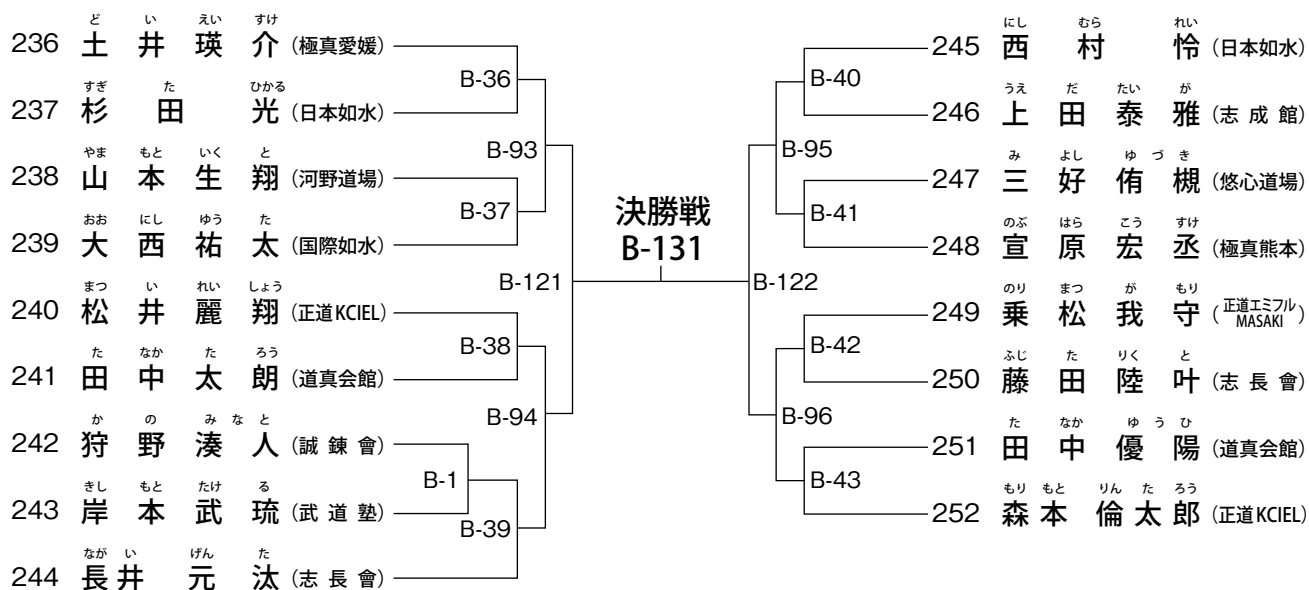
小学4年生男子 上級の部 重量級



小学5年生女子 上級の部



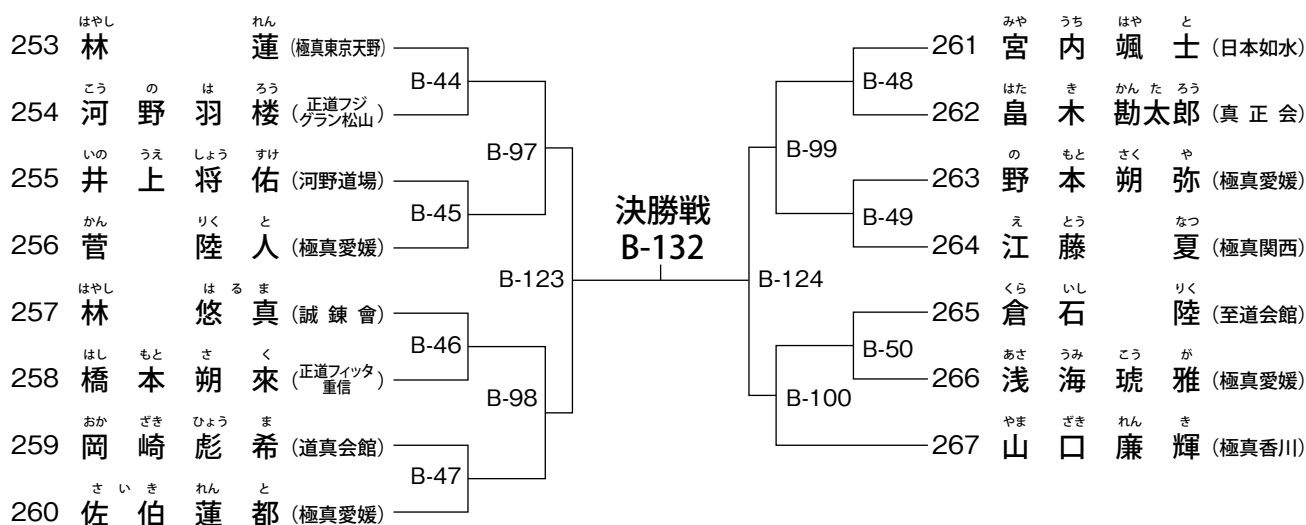
小学5年生男子 上級の部 軽量級



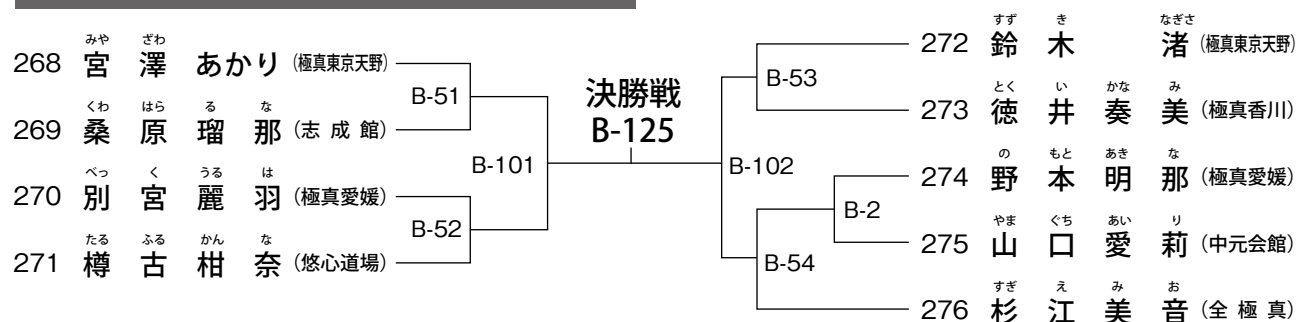
※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

トーナメント表 Bコート (正面向って左)

小学5年生男子 上級の部 重量級



小学6年生女子 上級の部



※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤



トーナメント表 Cコート (正面向って左)

小学6年生女子 ファースト

決勝戦
C-91

277 かん 神 だ 田 もも 桃 こ 子 (極真兵庫)

278 まな 直 こ 子 れい 玲 な 奈 (極真兵庫)

小学6年生男子 ファースト

279	みね	ゆき	はる	き	毅 (極真愛媛)	C-51	決勝戦 C-120	C-53	283	ます	だ	れい	令 (極真愛媛)		
	峯	雪	遙							増	田				
280	うえ	だ	こう	き	輝 (国際如水)				C-92	C-93	284	もり	あや	と	仁 (極真兵庫)
	上	田	幸									森		彩	
281	たま	い	はる	と	翔 (極真愛媛)	C-52		C-54	285		わ	だ	かず	ま	真 (極真愛媛)
	玉	井	陽								和	田	一		
282	ま	なべ	くう	こ	吾 (芦原会館)	C-51			C-93	286	べっ	く	き	りゅう	琉 (極真愛媛)
	真	鍋	空								別	宮	希		

中学生女子 ファースト

287	こ	じま	ら	む	(極真島根)	C-94	決勝戦 C-121	C-95	C-56	290	やま	かげ	こ	こ	な	(極真愛媛)
	小	島	来	夢							山	蔭	恋	々	菜	
288	さだ	まさ	み	ゆ	(極真兵庫)					291	さい	き	あい	は	(志長會)	
	貞	政	心	祐		C-55		C-56		佐	伯	彩	羽			
289	わた	なべ	ゆ	い	(極真愛媛)				292	すぎ	もり	ま	い	(極真愛媛)		
	渡	部	結	衣							杉	森	真	衣		

中学男子 ファースト

293	なか	の	えい	と	(吉村道場)	C-57	決勝戦 C-122	C-97	299	まつ	した	ま	こ	と	(極真愛媛)
	中	野	詠	人						松	下	環	士		
294	やま	もと	れ	お	(極真愛媛)	C-8		C-59	300	しば	ゆう	と	(吉村道場)		
	山	本	蓮	桜						芝	祐	音			
295	の	じま	そう	た	(悠心道場)	C-9		C-10	301	きし	ゆう	た	(極真愛媛)		
	野	島	奏	太						岸	佑	多			
296	く	ぼ	そう	すけ	(極真愛媛)	C-58		C-60	302	やま	かげ	る	い	(極真愛媛)	
	久保田	颯	介							山	蔭	琉	生		
297	もり	た	ゆう	せい	(吉村道場)	C-9		C-11	303	しま	ざき	そう	すけ	(吉村道場)	
	森	田	悠	正						嶋	崎	宗	佑		
298	り		し	ぼく	(極真愛媛)	C-10		C-11	304	し	みず	ゆう	き	(悠心道場)	
	李		子	墨						清	水	優	希		

※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

トーナメント表 Cコート (正面向って左)

高校生男子 ファースト

	305 関野京一 (極真愛媛)	306 藤野翔輝 (極真愛媛)	307 穂木竜之介 (極真愛媛)
305 関野京一 (極真愛媛)		C-1	C-61
306 藤野翔輝 (極真愛媛)	C-1		C-98
307 穂木竜之介 (極真愛媛)	C-61	C-98	

一般女子 ファースト

308 小西亜希 (極真愛媛)	C-62	決勝戦 C-99	C-63	310 野本絢香 (極真愛媛)
309 武智百香 (極真愛媛)				311 大西佳菜子 (悠心道場)

一般男子 ファースト

312 山本旭都 (道真会館)	C-64	決勝戦 C-100	C-65	314 大西桂輔 (悠心道場)
313 神田遥輝 (極真兵庫)				315 片岡宏泰 (極真愛媛)

※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤



トーナメント表 Cコート (正面向って左)

壮年女子 ファースト

	316 こも だ か な み 菰 田 香菜美 (悠心道場)	317 こん どう めぐみ 近 藤 恵 (極真愛媛)	318 わた なべ ひ か 渡 部 妃 華 (極真島根)
316 こも だ か な み 菰 田 香菜美 (悠心道場)		C-2	C-66
317 こん どう めぐみ 近 藤 恵 (極真愛媛)	C-2		C-101
318 わた なべ ひ か 渡 部 妃 華 (極真島根)	C-66	C-101	

壮年男子 ファースト

決勝戦 C-102			
319 ほ き とおる 穂 木 徹 (極真愛媛)		320 よ ふね てる ゆき 夜 船 輝 行 (道真会館)	

小学1年生男子 セカンド

決勝戦 C-103			
321 わ だ おう すけ 和田 旺 典 (道真会館)	C-67		323 たか はし ゆう し 高 橋 勇 志 (正道高知)
322 い で ゆう せい 井 出 悠 誠 (極真愛媛)		C-68	324 た なか だい ち 田 中 大 智 (正道フイッタ重信)

小学2年生男子 セカンド

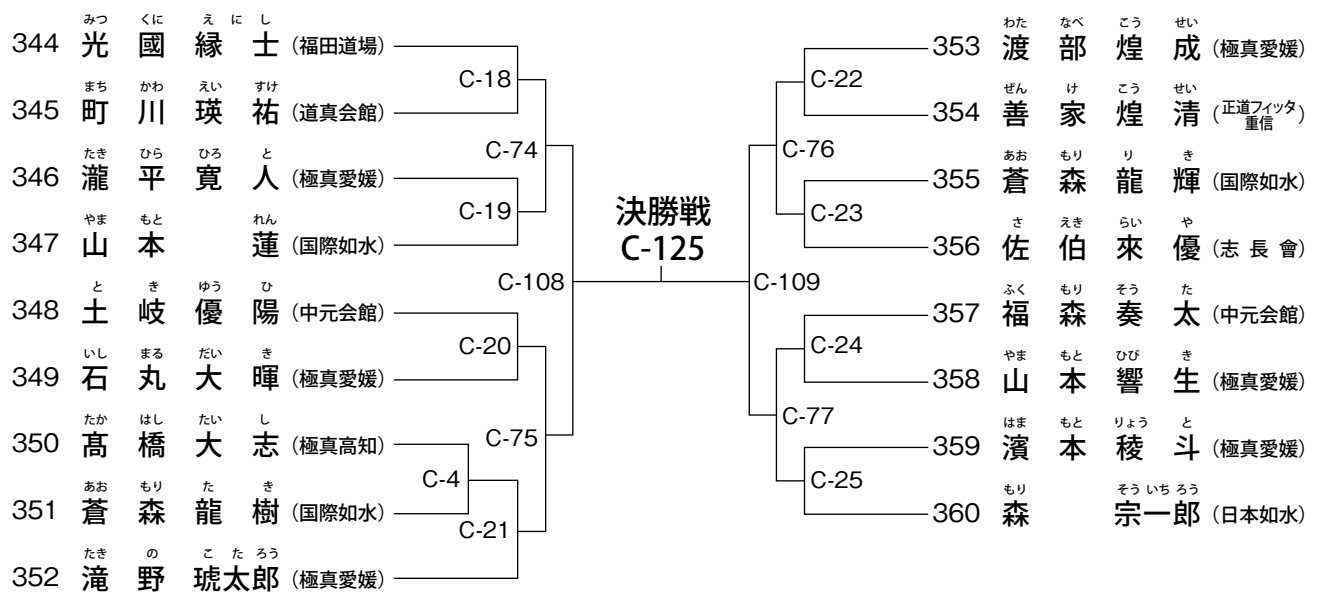
325 なが の た か ら 長 野 峻 来 (真煌会館)	C-12	決勝戦 C-123				332 なか がわ こう せい 中 川 煌 惺 (道真会館)
326 あ べ かい と 阿 部 快 飛 (極真愛媛)						333 い かわ ほ ずみ 猪 川 歩 澄 (志長會)
327 みや うち こう 宮 内 郷 (芦原会館)	C-13	C-69	C-104	C-71	C-15	334 なか さか えい すけ 中 坂 映 亮 (極真愛媛)
328 すず き り おと 鈴 木 璃 音 (極真愛媛)						335 ささ おか えい た 笹 岡 栄 汰 (真煌会館)
329 おか もと こう へい 岡 本 康 平 (極真佐藤)	C-14	C-70	C-105	C-16	C-72	336 かど や ゆう リ 門 屋 勇 李 (極真愛媛)
330 つじ ゆう しん 辻 優 心 (正道フイッタ重信)						337 もり い げん た 森 井 源 大 (芦原会館)
331 だい もん りょう た 大 門 亮 太 (道真会館)				C-17		338 うえ やま こう しん 上 山 恒 真 (日本如水)

トーナメント表 Cコート (正面向って左)

小学3年生女子 セカンド



小学3年生男子 セカンド



小学4年生女子 セカンド

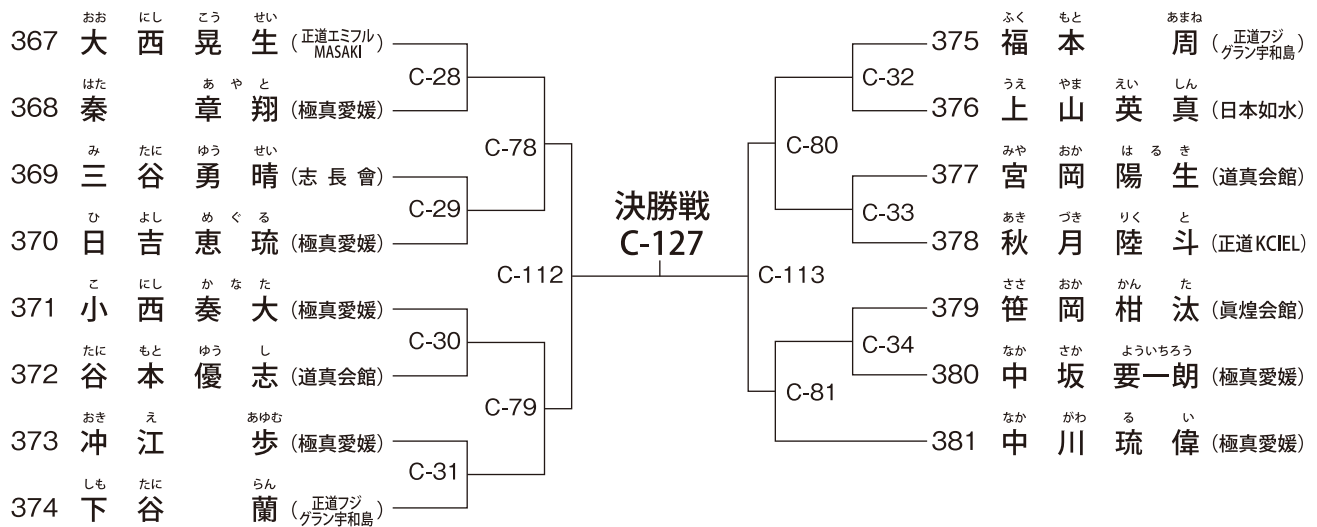


※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤



トーナメント表 Cコート (正面向って左)

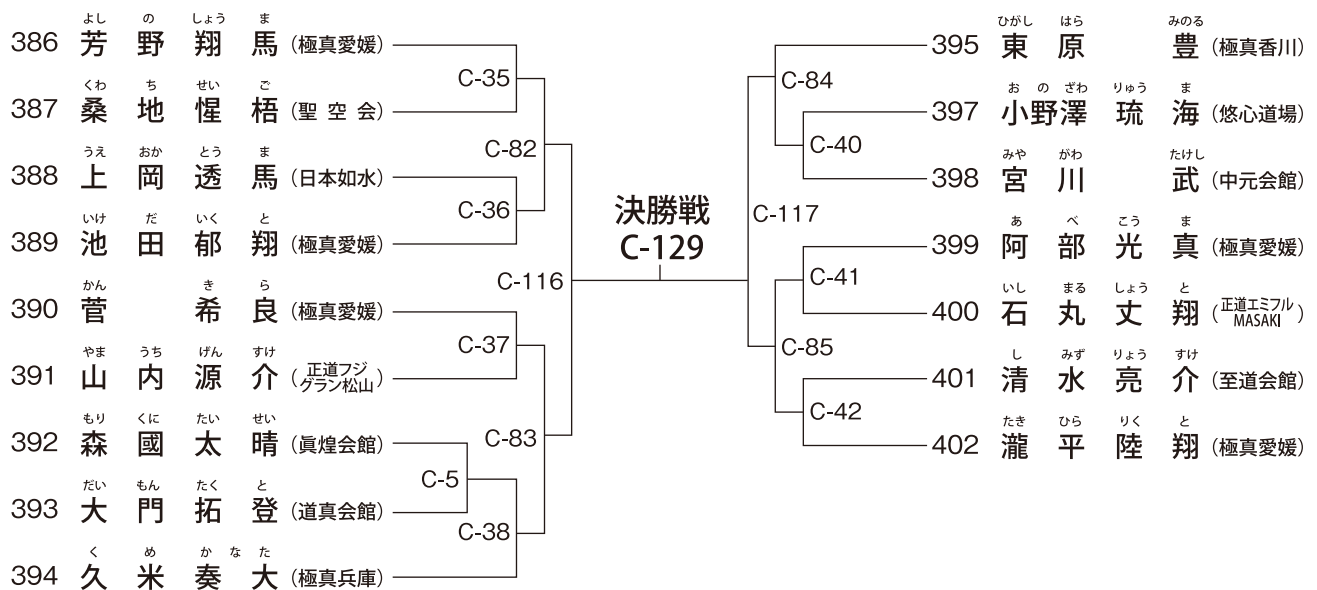
小学4年生男子 セカンド



小学5年生女子 セカンド



小学5年生男子 セカンド



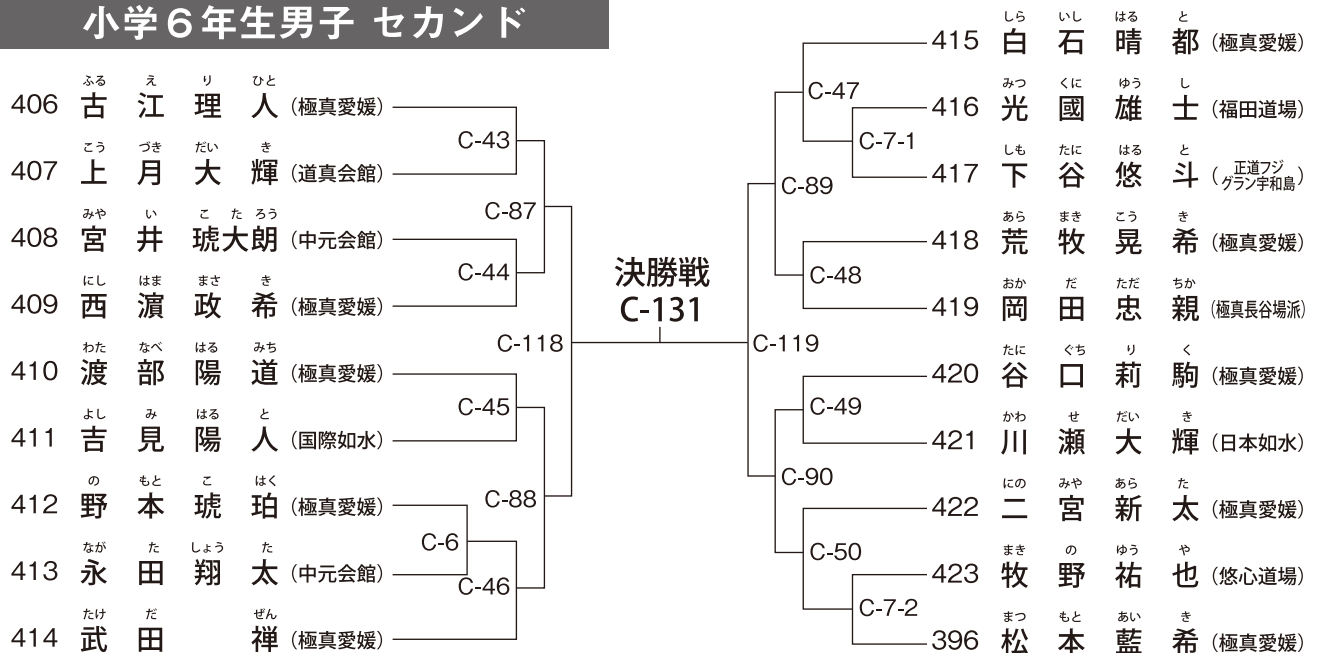
※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

トーナメント表 Cコート (正面向って左)

小学6年生女子 セカンド

	いぐちこあ 403 井口心葵 (極真愛媛)	ひさのゆずき 404 久野柚希 (真煌会館)	おがわさ 405 小川紗良 (極真愛媛)
いぐちこあ 403 井口心葵 (極真愛媛)		C-3	C-86
ひさのゆずき 404 久野柚希 (真煌会館)	C-3		C-130
おがわさ 405 小川紗良 (極真愛媛)	C-86	C-130	

小学6年生男子 セカンド



※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

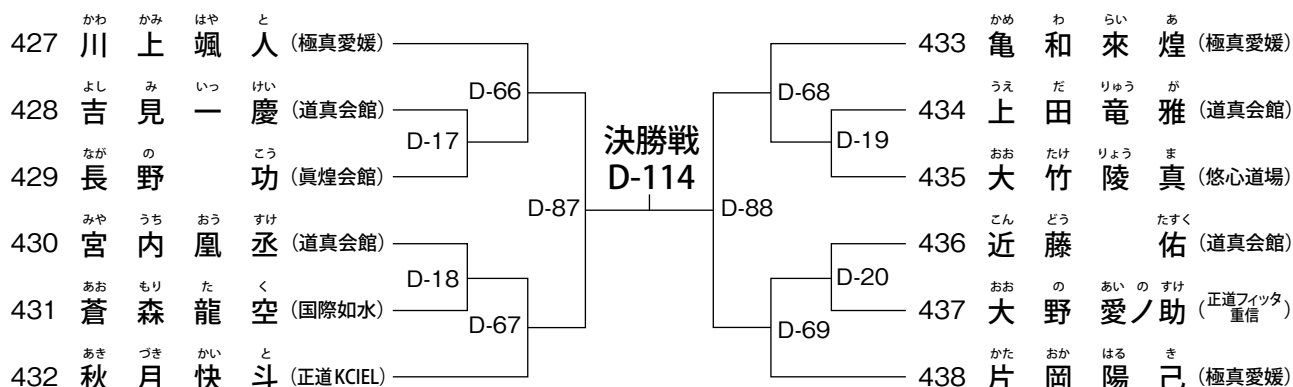


トーナメント表 Dコート (正面向って左)

幼年女子 ファースト

	みや おか のぞみ 424 宮 岡 希 (道真会館)	ひさ の み つ き 425 久 野 美 希 (真煌会館)	くま だ み こ 426 熊 田 珠 子 (道真会館)
みや おか のぞみ 424 宮 岡 希 (道真会館)		D-16	D-65
ひさ の み つ き 425 久 野 美 希 (真煌会館)	D-16		D-86
くま だ み こ 426 熊 田 珠 子 (道真会館)	D-65	D-86	

幼年男子 ファースト



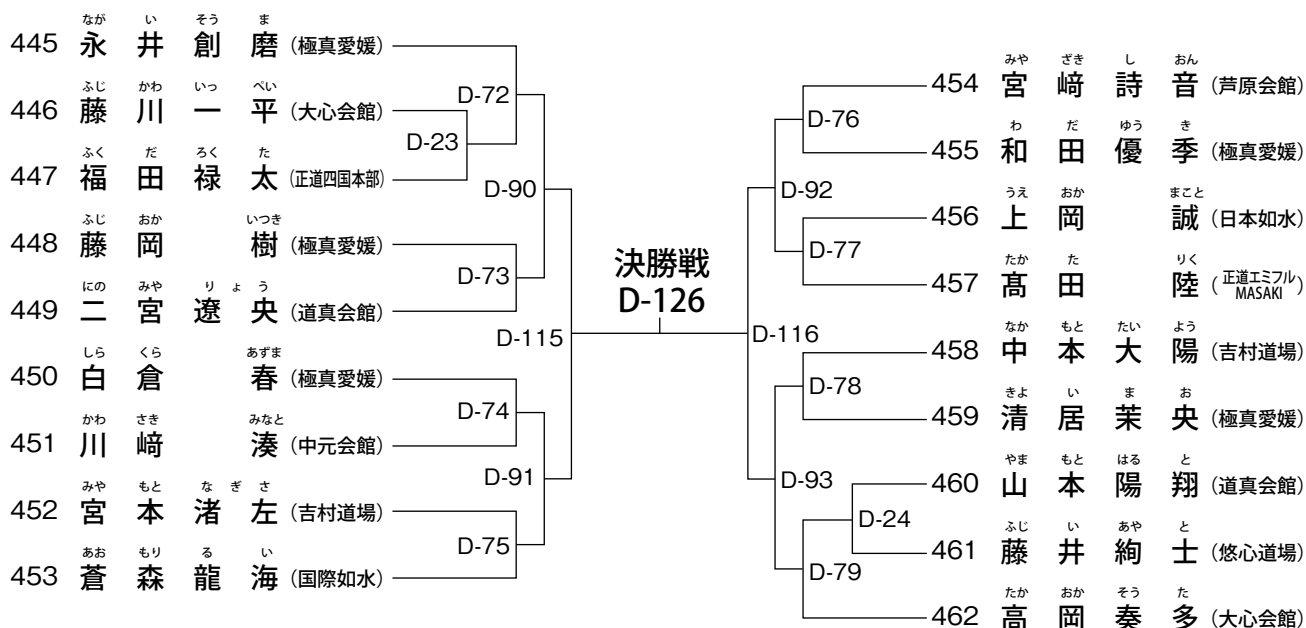
小学1年生女子 ファースト



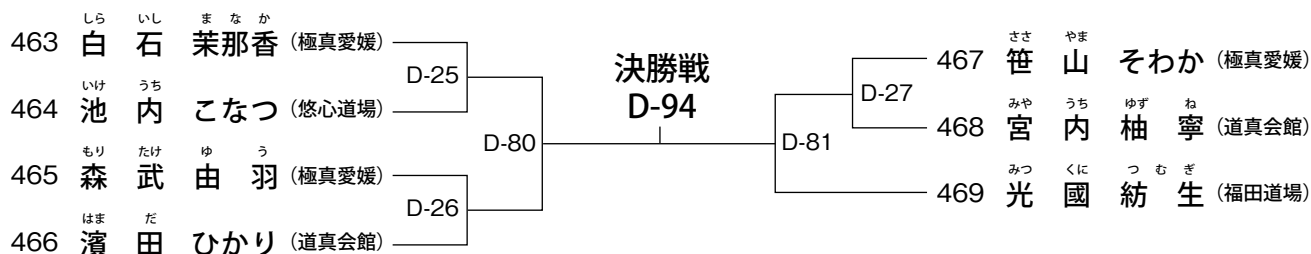
※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

トーナメント表 Dコート (正面向って左)

小学1年生男子 ファースト



小学2年生女子 ファースト



※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤



順位	名前	所属	対戦相手	対戦相手所属	試合結果
470	伊藤 浩太朗	(極真愛媛)	482	芳野 広翔	(極真愛媛)
471	まつ 浦 純也	(国際如水)	483	二宮 蓮都	(悠心道場)
472	なか 田 怜翔	(極真愛媛)	484	しみず 水 橙生	(大心会館)
473	おお 塚 昂太	(正道山本)	485	みや 田 凪	(芦原会館)
474	みや 原 陸仁	(悠心道場)	486	おき 江 旬	(極真愛媛)
475	にし 田 弦ノ介	(極真愛媛)	487	おお 塚 新太	(正道山本)
476	かわ 西 伍 桔	(芦原会館)	488	い 藤 慈 桜	(極真愛媛)
477	やま の うち じん 迅	(極真愛媛)	489	しま だ そ う 生	(真煌会館)
478	くわ やま たい が 雅	(悠心道場)	490	おお の ゆう ご 悟	(悠心道場)
479	まつ もと じ げん 眼	(大心会館)	491	おか もと せ い 伊	(極真愛媛)
480	やま うち はる と 翔	(福田道場)	492	おお たけ かな た 汰	(悠心道場)
481	お の はる と 大	(極真愛媛)	493	お の しゅん すけ 介	(極真愛媛)

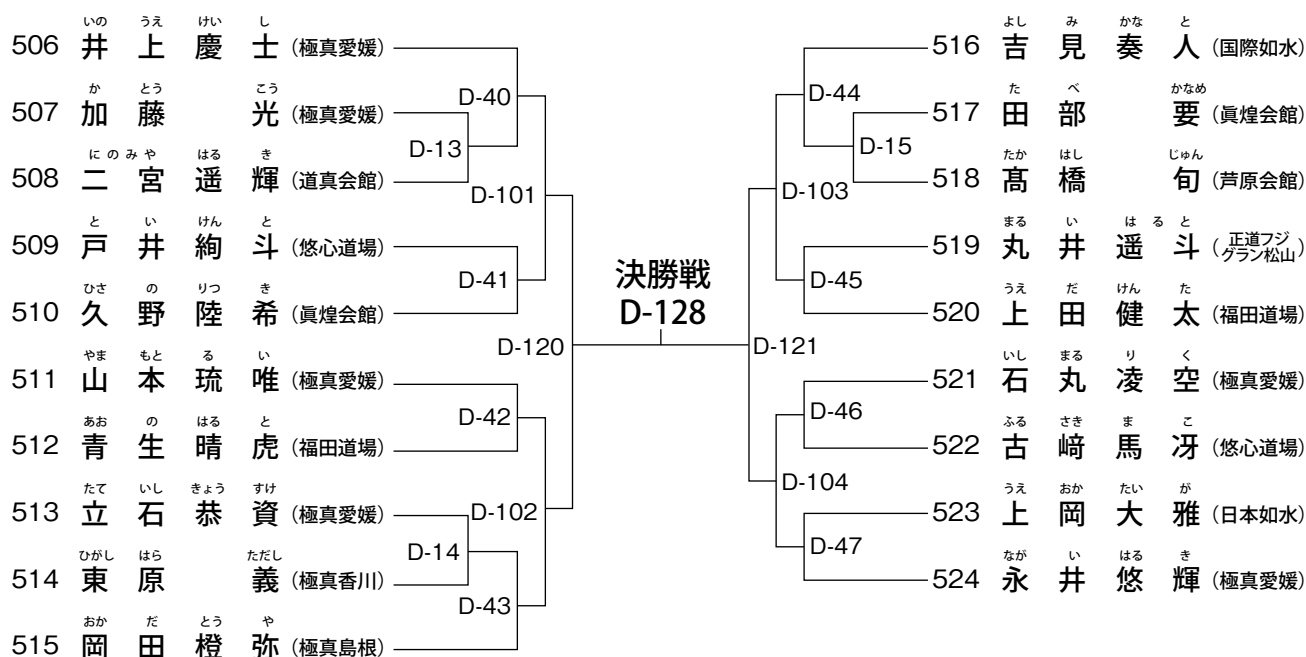
順位	苗字	名	リングネーム	対戦相手	結果
494	高岡	莉望	(大会会館)		
495	神田	杏	(極真兵庫)		
496	渡部	冠妃	(極真愛媛)		
497	中野	永菜	(極真香川)		
498	笹山	仁和	(極真愛媛)		
499	松岡	愛結	(河野道場)		

順位	苗字	名	リングネーム	対戦相手	結果
500	池田	仁華	(極真愛媛)		
501	中本	陽莉	(吉村道場)		
502	川又	陽菜	(極真愛媛)		
503	野本	咲月	(極真愛媛)		
504	井原	七彩	(正道フジ グラン松山)		
505	高橋	結	(極真兵庫)		

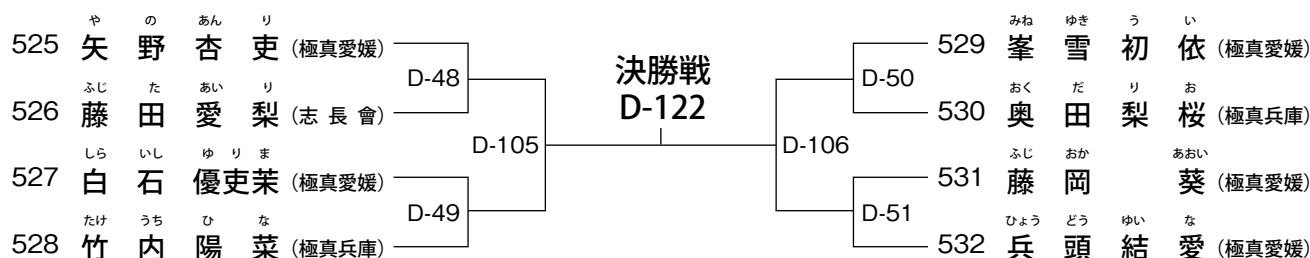
36

トーナメント表 Dコート (正面向って左)

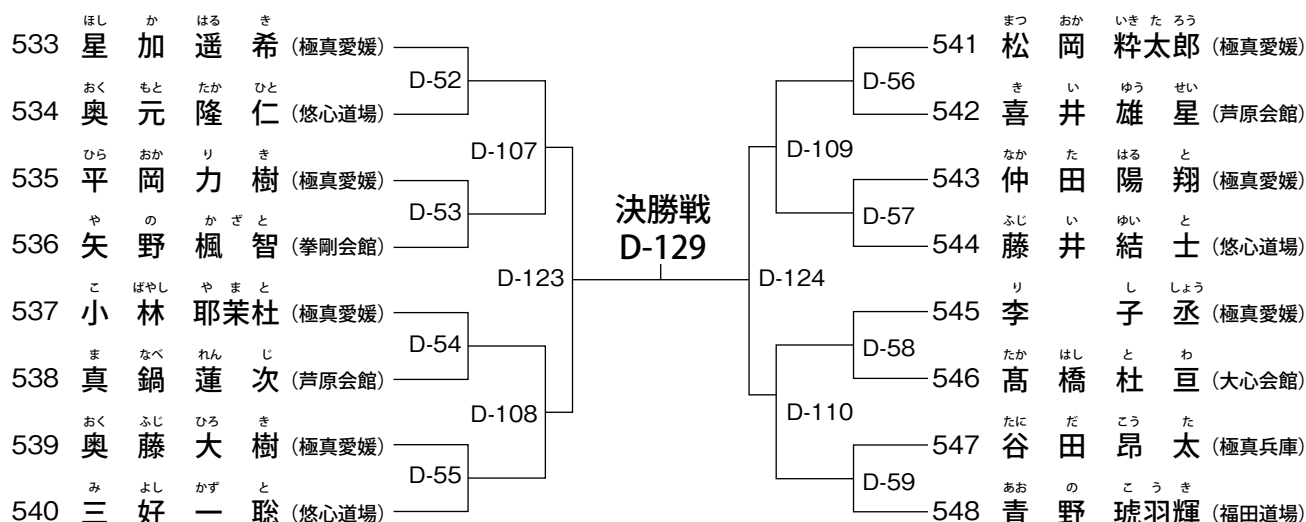
小学3年生男子 ファースト



小学4年生女子 ファースト



小学4年生男子 ファースト



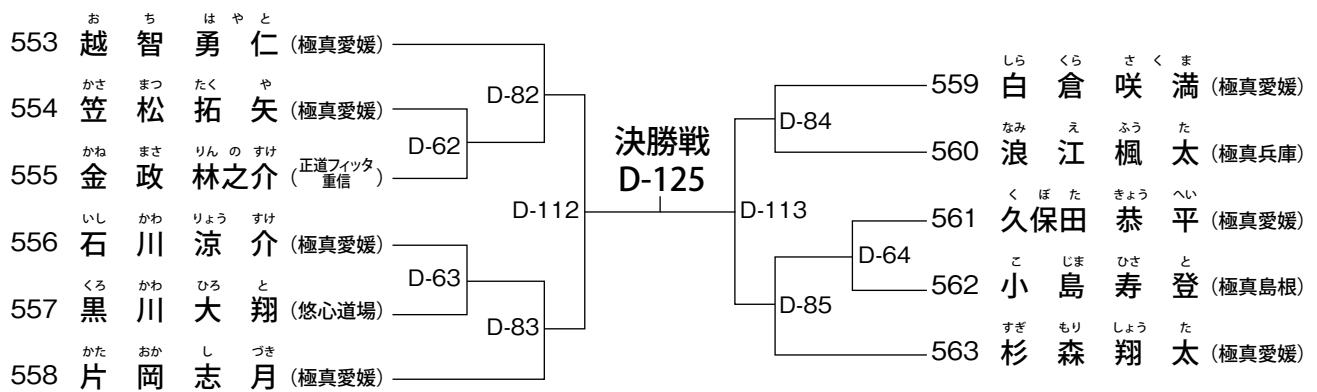


トーナメント表 Dコート (正面向って左)

小学5年生女子 ファースト



小学5年生男子 ファースト



※トーナメント表
上段選手が白、下段選手が赤

◇松山学院高等学校極真空手道部◇

2025年5月26日創設式 全国初!高校に極真空手道部創設

戸田道場に新たな歴史が刻まれました。待望の松山学院高等学校極真空手道部が正式に発足し、全国初となる極真空手の空手道部が誕生しました。

令和7年5月26日(木)に松山学院高等学校の体育館にて創設式が行われ、戸田美智男師範と本部から三上汰明先輩が駆けつけ、戸田師範からは温かく力強い激励の言葉が部員に贈られました。

その後、基本や移動、ミットなどの初稽古を行い熱い汗を流しました。
まだ部員は少数ですが、女子マネージャーの加入もあり、着実に力強い一歩を踏み出しています。

そして、顧問を務める同行の岡田真治先生―先日、極真空手の黒帯を取得されたばかりの情熱溢れる指導者―のもと、松山学院高等学校極真空手道部はこれから素晴らしい成長を遂げることとされます。

極真空手の精神とともに、未来へ向けて力強く突き進んでいきましょう。





◇第1回アジア空手道選手権大会◇

2024年8月1日 カザフスタン アスタナで開催 神原敏行選手準優勝

カザフスタンの首都アスタナで開催された「第1回アジア空手道選手権大会」シニア男子75kg級に、神原敏行3段が日本代表として出場しました。

今治、松山鷹子・小野支部支部長として指導する傍ら、選手としても稽古に励んで挑戦をしました。

遠い異国の地で戦うというハンデにもかかわらず、果敢に攻め続けて決勝戦まで勝ち続け延長戦で敗れたものの準優勝という素晴らしい結果となり、日本人選手の強さを示しました。



◇第25回ヤングSS大洲空手道大会◇

第2回全日本極真「型」選手権大会選抜大会 ～次回は2026年3月15日大洲市民体育館で開催決定～

本年3月2日(日)、大洲市体育センター体育館において「第25回ヤングSS大洲空手道大会」が開催されました。

本大会は愛媛県警極真空手道部が運営し、大洲警察署が共催する警察主体の全国でも珍しい大会で入賞者には警察マーク入りの盾が授与されます。

今年から横浜武道館で開催される「全日本極真『型』空手道選手権大会選抜大会」としての位置づけとなり、地元の愛媛県だけでなく熊本県、兵庫県、山口県、広島県、香川県など県外から多くの他流派を含む200人以上の選手が出場しました。

来年3月15日(日)には「第3回全日本極真『型』空手道選手権大会選抜大会」として大洲市民体育館に場所を移して開催しますので、多くの選手の出場をお待ちしています。





◇ 令和7年度 昇段審査 ◇

～気迫と絆―昇段審査の熱き戦い―～



極真会館愛媛県戸田道場令和7年度昇段審査は、松山市の三津修練所にて執り行われました。

今年度は、下は中学生、上は還暦60歳までと年齢の幅が広く、合わせて11名が昇段審査に挑みました。受審者は、中学生の岡裕人君(本部)、岩城斗也君(西条)、高校生の東悠樹君(本部)、荒牧優翔君(空港通り)、そして、一般・壮年部からは岡田真治さん(空港通)、兵頭佑哉さん(三津)、玉井祐子さん(本部)、半年前に他流派から移籍された野島悠伺さん(明浜)、還暦60歳を迎えた今回最年長の矢野一志さん(高津)の9名が初段を、そして今治支部の山下学副支部長が二段を、新居浜川東・高津支部の高津信二支部長が三段に挑戦されました。

昇段審査の開始時間が迫る中、いつもとは違うピリピリとした空気と緊張感が会場内に広がっていました。

まずは筆記試験から始まり準備運動、基本は正拳中段突き100本から入り、移動、型と審査が進みます。審査の緊張に加え通常の稽古より本数も多く過酷な状況の中で次第に息が上がります。途中戸田師範より脱力を意識するよう注意いただき、全員がやり遂げることができました。

また、戸田師範が現役警察官だった頃、実際に凶悪犯に使われていた技の一つ【まわし受けからの崩し】が今年から審査項目に加わりました。新しい審査項目ではありましたが皆さん良く稽古されていたと思います。

続く体力審査は、ボール蹴り・開脚・足掛け立ち・棒飛び・逆立ち歩行・腕立て100回となりますが、皆さん素晴らしい出来でした。中でも高校生の荒牧君は見事全項目を成し遂げ会場に大きな歓声が湧き上がり、戸田師範からも賞賛されていました。





午後から行われた組手審査は、初段受審者は10人、二段三段はそれ以上の人数を連続して行います。

幼い頃から極真空手をはじめ、数多くの大会に出場し活躍している東君、岡君、荒牧君、岩城君の中高生の4人は、それぞれの持ち味やステップ等を活かし、強豪選手も多数いる黒帯の先生先輩方を相手に下がる事なく、若さと勢いある組手で最後まで見事にやり遂げました。

続く野島さん、岡田さん、兵頭さん、矢野さんも、その強い気持ちと気迫に溢れた組手で見事最後までやり遂げられました。そして今回唯一の女性受審者である玉井さんは最後まで果敢に組手審査に挑み、強い母親としての背中がそこにはあり感動致しました。続く山下副支部長は今年の統一戦で準優勝という肩書きを持つ強豪選手で、黒帯の先生方先輩方を相手に華麗な組手で見事に完遂致しました。最後は高津支部長でした。最後の組手では会場が一つになり高津支部長を盛り上げ、その声援に応えるよう気力を全て振り絞り気迫に溢れた組手で見事完遂し、その姿に目頭が熱くなりました。

審査の結果は後日発表となりましたが、受審者全員が合格となりました。極真会館戸田道場の900人近い入門者の中で黒帯を取得できるのは1割足らずと言われております。二段三段に至っては更に少ないと言われている中、今回昇段された11名全員の合格は本当に素晴らしいことだと思います。極真空手の昇段審査は厳しいですが、この極限の経験を今後の自身の修行や私生活に活かして頂きたいと思っております。師範もおっしゃられていましたが、初段取得が空手家としての本当の修行の始まりだと思い、真摯に空手の稽古に取り組んで頂きたいと思っております。そして道場生の皆さんにも今回の受審者に続いてぜひ昇段審査に挑戦して頂き、極真空手を通して人生を豊かにして頂きたいと思っております。押忍。





◇昇段レポート◇



初段

玉井 祐子

松山潮見本部

この度は昇段審査の機会をいただき、誠にありがとうございました。

審査にあたり、戸田師範をはじめ、先生方や先輩方のご尽力と熱心なご指導に、心より感謝申し上げます。また、日々の稽古を支えてくれた家族の理解と協力にも、深く感謝しております。

入門から今日までを振り返ると、仕事、家事、そして空手。この三つの存在があったからこそ、この相互関係がそれぞれにより影響を与え、何かにくじけそうになった時も、心のバランスを保つことができたのだと感じています。

審査では、体力・技術すべてにおいて自分の未熟さを痛感し、分不相応な挑戦ではないかと、何度も自問自答を繰り返しました。

審査を終えた今も、自分が本当に合格に値するのかわからない不安を拭き去ることはできません。しかし、実力に差はあっても、黒帯初段の重みは誰にとっても等しく、厳粛であることを深く受けとめています。

今回の審査を通して、改めて戸田師範をはじめ先生方や先輩方の技術の高さ、精神力の強さ、そして日々の直向きな姿勢のひとつひとつに、深い敬意を抱いております。これまで何気なく受けていたご指導が、いかに重みと意味を持つものであったかを、身を持って実感いたしました。

自身の恐れや未熟さを乗り越えるためには、稽古を重ねるしかありません。初段に恥じぬよう、これからも歩みを止めることなく、より一層稽古に励んでまいります。

ようやく極真空手道の出発点に立ったにすぎません。今後は心身の鍛錬に加え、指導員としての自覚と責任を持ち、より精進していく所存です。

今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



初段

東 悠樹

松山潮見本部

この度は昇段審査を受審する機会を頂きありがとうございました。

私は幼稚園の年長の頃、戸田師範と古くから関わりがあった父親の勧めで戸田道場に入門しました。道場に見学に行った最初の日に極真空手の圧に押しされ、師範に東くんと呼ばれ「はい」と返事をしてしまったことを今でも覚えています。

本来私は2年前の審査を受審する予定でしたが、腰の怪我や高校受験の影響で今回に至りました。2年越しの挑戦であったことや長い間共に稽古してきた同級生や後輩に黒帯の先を越されたこともあり、背水の陣で審査に挑みました。

今回受審するにあたり、稽古時間を延ばして体力審査の稽古をしたり、家で苦手の柔軟を毎日繰り返しました。

審査当日は緊張感や不安が濃く心配な気持ちがありましたが、今までの空手人生で関わり共に審査を受ける仲間が隣にいて「自分ならいける」と鼓舞して挑みました。

しかしいざ審査が始まると脱力することや組手に体力を残すことを考えすぎた結果、いきなり師範から「力が入っていない」と指摘を受けました。

そのことを聞き心の中のもやもやした気持ちが晴れたような気がします。

目の前のことに全力を尽くせないようでは黒帯に相応しくないと、基本から移動、型、体力審査まで突っ走りました。

午後からの組手では午前の疲労がのしかかり、やる前から脚がガチガチでしたがこれまでの10年間の空手人生の集大成だと思い最後までやり遂げることができました。

ここまで辿り着くことができたのは最後まで自分を見捨てずに指導して下さった戸田師範や黒帯の先輩方、いつも応援してくれた道場の後輩のみんな、そして空手以外でも時にライバルとして時に親友として切磋琢磨することができた同級生の皆のおかげです。

これまで支えて下さった方々へ恩返しと思い込めて黒帯として道場に還元できたらと思います。

重ねてにはなりますが、今回昇段審査を受審するにあたりご指導頂きました戸田師範を始めとする黒帯の先輩方、ご尽力いただきありがとうございました。

押忍

◇昇段レポート◇



初段
岡 裕 人

松山潮見本部

この度は、昇段審査を受審させていただき、誠にありがとうございました。

私は、四歳の時、本部道場の見学に行きました。その稽古の迫力に圧倒された当時の私は、思わず泣いてしまいました。しかし同時に、そんな弱い自分に打ち勝ちたいという思いも芽生え、戸田道場に入門しました。まだ幼く、右も左もわからない状態だった私は、とりあえず周りのみんなについていくのに精一杯でした。他人よりも不器用で、なかなか稽古も思うようにはできませんでした。その割には、負けず嫌いでしたので、初めて出場した試合の初戦で敗れ、とても悔しい思いをしました。それ以降、試合で負けたくないと、以前よりいっそう、一生懸命に稽古するようになりました。その甲斐あって、小学校一年生からは、全国大会に出場できるようになりました。頑張り続けて良かったと思います。

空手を続けてきて、嬉しいこと、悔しいことなど様々ありましたが、一級になり、中学二年生のタイミングで、私は、昇段を意識するようになりました。夢のまた夢だと思っていたものに、手が届くところまで、たどり着くことができたのです。

昇段審査のために、苦手な型を細かいところまで意識して、稽古を重ねました。本番では、その成果をしっかりと発揮することができました。また、体力審査でも、日々の努力の成果もあり、苦戦した棒跳びを含め、しっかりとやり遂げることができました。しかし、私の想像をはるかに超える試練だったのが組手でした。やはり、昇段審査の組手は、今までの昇級審査や普段の稽古とは比べものにならないくらい、大きな壁でした。周りの先輩方のご声援もあり、何とか乗り越え、空手とともに歩んだ十年間の修練を出し切って、昇段審査を完遂することができました。

これまでご指導頂きました戸田師範をはじめ、黒帯の先生、先輩方、今まで本当にありがとうございました。今後とも、精進してまいりますので、ご指導よろしくお願いいたします。



初段
岡 田 真 治

松山学院高等学校
極真空手道部顧問
(松山空港通支部)

このたび、昇段審査の機会を賜り心より御礼申し上げます。日頃ご指導下さる先生方、共に稽古に励んで来た仲間、そして支えてくれた家族に深く感謝いたします。

極真空手を始めたのは、息子と共に学び、共に成長したいという思いからでした。厳しい稽古を乗り越え、達成感を分かち合うことは、何事にも代えがたい喜びです。極真空手の魅力は、年齢を問わず互いに学び合い、挑戦し続けられる点にあると改めて実感しています。

昇段審査に向けた稽古の中で、技の未熟さや精神的な甘さを痛感しました。特に本部での出稽古は、大きな転機となりました。普段とは異なる環境の中で、戸田師範のご指導を受けることで、基本の大切さを再認識し技の一つひとつを丁寧に修正することを心がけました。そして、極真空手に携わる者としての「覚悟」の重要性を強く感じました。

審査当日は、戸田師範、杉野師範代、そして仲間への感謝の気持ちを胸に全力で挑みました。しかし審査を通じ、自分の未熟さを改めて思い知らされました。

審査後、戸田師範から「昇段は終着点ではなく、新たな出発点である」とのお言葉をいただき、その意味を深く受け止めました。

これからも修練を重ね、極真空手を通じて人間としてさらなる成長を目指していきたいと思えます。また、本年度より勤務先の松山学院高校に極真空手道部が創設され、指導の機会をいただきました。関係者の皆様に心より御礼申し上げますと共に、「頭は低く、目は高く、口慎んで心広く、孝を原点として他を益す」という極真精神の実践を目指し、真摯に取り組んでまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



◇昇段レポート◇



初段

荒 牧 優 翔

松山空港通支部

この度は、昇段審査の機会をいただき誠にありがとうございました。私は小学一年生の秋、父と共に空港通支部で極真空手を始めました。技を覚えるのに苦労し、試合に出ても勝てず、何度も悔しい思いをしました。しかし、道場の仲間や先生、先輩方に励まされながら稽古を続けるうちに、自分自身を鍛えることの大切さを学んできました。

今回の昇段審査では、筆記、基本稽古、移動稽古、型、体力審査、十人組手と、多岐にわたる課題が課されました。特に体力審査では、腕立て伏せ百回、棒跳び十回、逆立ち歩行五メートル、ボール蹴りなど、高いレベルの運動能力が求められました。私はこの体力審査を突破するために、毎日少しずつ稽古を重ね、審査当日は二メートル十センチの高さに吊るされたボール蹴りを含め、全種目をクリアすることができました。

十人組手では、自分の力不足を痛感しました。緊張もあり、受けがうまくできず、まるでサンドバッグようになってしまいました。それでも何とか最後まで完遂することができました。今後は黒帯として恥じぬ実力を身につけるため、一層精進して参ります。昇段は一つの通過点に過ぎず、本当の修行はこれからだと考えています。

極真空手を通じて、私は礼儀、忍耐、感謝の心など、技術以上に大切なことを学びました。戸田師範、杉野師範代、そして先生や先輩の方々からいただいた教えは、これからの人生にも活かされると確信しています。感謝の気持ちを忘れず、空手を通じてより良い自分を目指していきたいと思います。

最後になりますが、これからも微力ながら戸田道場の発展に尽力して参りますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



初段

兵 頭 佑 哉

松山三津支部

この度、昇段審査受審の機会をいただき、心よりお礼申し上げます。

私は、約6年前に知人の紹介で息子と2人で入門致しました。以前から、日常生活において、子供たちに言葉で物事を伝えることが苦手でしたので、父親が空手をがんばる姿を見せて、何か感じ取ってもらえたらいいという思いと、自分自身の心身成長のために、極真空手に入門することに決めたのです。

今回昇段審査を受審するお話をいただいたとき、戸惑いもありましたが、「受けるからには、やれることは精一杯やっておこう」と心に決め、通常の稽古日には、稽古終了後に残って基本、型などの審査項目について師範代からご指導いただくとともに、稽古日以外は自宅でランニング、坂道ダッシュ、腕立て伏せ、腹筋など体力強化に取り組みました。

審査当日は、「全力を出し切って合格する」という強い気持ちで臨みました。しかし、筆記試験では、極度の緊張から鉛筆を持つ手が震え、字が上手く書けませんでした。また、基本から型まで体に力が入りすぎて体力を早く消耗してしまい、何とか気力を振り絞りやりとげたものの、力の強弱や技の緩急をつけた思い通りの動きはできませんでした。また、出稽古で、戸田師範からご指摘いただいていた、技の一つ一つが小さい点が結局修正できておらず、自分の未熟さを痛感致しました。

十人組手では、十人目の神原支部長に、ボディーやローキックを効かされ、最後の方は手も足も出せず、立っているのがやっとであり、極真空手の昇段審査の厳しさを痛感させられました。ただ、その反面、より一層稽古に励み、もっと強くなりたいと思いました。

今回、昇段審査を終えて、動きが小さい点など課題は残りましたが、目の前の試練から逃げ出さず、日々精進して課題の克服に努めるとともに、三津支部初の黒帯として、道場生の模範となるよう心掛け、少しでも戸田道場のお役にたつことができるようがんばります。

これまでご指導いただきました戸田師範をはじめ、師範代、先生、先輩方、一緒に稽古し応援してくださった道場生、そして家族には深く感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。押込。

◇昇段レポート◇



初段
矢野 一 志

新居浜川東支部

この度は、昇段審査を受審するという名誉ある機会を与えていただき誠にありがとうございました。ご指導いただきました戸田師範を始め師範代、支部長、副支部長、道場生の皆様に心より感謝申し上げます。

私が極真空手に入門するきっかけは、息子を心の強い男の子に成長させたいという思いからでした。見学をさせていただき、よし！ここに息子をお願いしようといざ申し込みをしようとした時、「お父さんが一緒じゃなきゃ嫌だ！」と言う息子の想いと、道場仲間のお誘いから、息子だけではなく自分自身の入会も一緒にすることを決めました。初めは運動不足解消くらいのつもりでしたが、いつの間にか息子より私自身がのめり込み、日々老体に鞭を打って稽古に励むようになっていました。

昨年師範をお招きして行った忘年会の席にて来年の目標をみんなで発表した時、「私は還暦を節目に初段に挑戦したい！」と言う目標を上げました。それから一年、スタミナアップ・基本・移動・型を一から見直そうと決めたものの、頑張ろうとすると体調を崩したり、治っても仕事や私用が増えたりで、なかなか思う様に稽古が出来ず焦る毎日でした。そんな中、年が変わり本部へ出稽古に行かせていただいた時、自分では気付けなかった癖や直すべきところを戸田師範に直接ご指導、ご指摘いただき、改善点がわかったことで少し不安が解消され、やる気に満ちた気持ちで帰路に着いた事を思い出します。

そして、審査の日が近づくにつれ、不安と緊張で心が張り詰めていき、迎えた昇段審査の日。早朝に自然に目が覚めてから段々と緊張感が増し、身体が思うように動ず、「脱力」という師範の言葉を思い出し取り組むものの、終盤に差し掛かった頃には足の指が攣り始め、いつもと違う体調の変化の中、午前中の種目を終えました。

午後の組手審査では、ただただ必死でやり抜いた！という一言に尽きます。そう出来たのも、周りで見守ってくださった黒帯の先輩方のご声援があつてこそだと思っています。

今後は極真会館愛媛県戸田道場の黒帯の一員として恥じぬ様、技の向上を図り日々精進して参りたいと思います。本当にありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。



初段
岩城 斗 也

西条支部

僕が極真空手と出会ったのは、保育園の年長の時でした。初めて見た極真空手は、幼い僕の目には強くてかっこよく見えました。そして、見学に行ったその日に「空手やりたい」と入門を決めました。始めたばかりのころは、なかなか移動稽古や型が覚えられず悔しくて稽古中に泣くこともあり、自宅で母と一緒に何度も練習し、少しずつ覚えていくことが出来ました。空手を続けていくうちに、僕の中に「僕が強くなって家族を守りたい」という気持ちが強くなってきました。その気持ちが強くなってからは、絶対に勝りたい！強くなりたい！とより一層稽古に励み、自宅でも父と一緒に得意技の上段蹴りの稽古をするようになりました。僕には西条道場に共に切磋琢磨する仲間や、今も試合に出て僕に強い背中を見せてくれる志賀先生がいます。志賀先生の礼節を重んじ、ひた向きに空手に向き合う姿は、僕の目指す空手になりました。

昇段審査の前日、部活の試合中に左足を負傷した時には「明日は大丈夫だろうか？」と不安になりました。当日は事情を知った寒作先生がテーピングを貼ってくださり、他の黒帯の先生方が声を掛けてくださったことで緊張が少しほぐれました。家族も心配をしながら見守ってくれ、不安な気持ちから今までやってきたことを出し切ろうという前向きな気持ちに変わりました。黒帯の先生や家族の応援により練習では、できなかった棒飛びや逆立ちが出来ました。そして審査の最後の十人組手では、得意技を出しながら、無事に終えることが出来ました。今回の審査中に師範から指摘いただいた箇所をしっかりと修正し、道場生の見本になれるように頑張っていきたいです。

最後になりますが、昇段審査を受けるに当たり、ご指導頂きました戸田師範、志賀先生、先輩方、家族、サポートして下さった皆さん、ありがとうございました。今後ともご指導よろしくお願い致します。



◇昇段レポート◇



初段
野 島 悠 伺

西予明浜支部
宇和支部支部長

この度、昇段審査を受ける機会を頂き、心より感謝申し上げます。普段から基本稽古を行っていましたが、戸田師範から昇段審査を受けてみないかとの助言を頂いた際、自分の技術や姿勢を見直す良い機会になると感じ、本格的に取り組むことを決意しました。それ以来、練習時間を増やし、特に審査に必要な型稽古に重点を置きました。型を覚えるのが得意ではなかった私は、何度も家で反復練習を重ね、練習中に生じた疑問や不安点は、道場で先生方に質問し、一つずつ解決していきました。

また、合宿では戸田師範から直接型の指導を頂き、自分では気づけなかった癖や修正点を教えて頂きました。その場で具体的なご指導いただき、練習を通じて正しい動きを身につけることができたのは大変貴重な経験でした。

昇段審査当日、これまでの努力と練習を思い出し、全力で臨みました。苦手だった型も、日々の稽古の成果を発揮することができ、最後まで集中を切らずに演武を行いました。一方、十人組手では、連続して組手を行う大変さを初めて体感し、息も絶え絶えになるほどの苦しさ直面しました。しかし、先輩方や先生方からの熱い声援が背中を押してくださり、最後まで乗り越えることができました。組手を終えた後、戸田師範から「よく頑張った」との言葉を頂き、これまでの努力が報われたと強く実感しました。

仕事の都合上、道場に通える日数が限られている中で、戸田師範をはじめ、多くの先輩方や先生方が練習時間外に個別指導の機会を設けてくださり、手厚くご指導頂いたことに改めて感謝申し上げます。そのおかげで、ここまで成長することができました。

これからも、「生涯の修行を空手の道に通じ極真の道を全うすること」という道場訓を胸に刻み、道場生の見本となるよう日々精進して参ります。改めて、今回の貴重な機会とご指導に心より御礼申し上げます。



二段
山 下 学

今治支部副支部長

このたび、二段の昇段審査を受けさせていただきました。基本、移動、型、体力、そして組手と、極真空手のすべてが試される内容で、これまで積み重ねてきたものを全力で出し切るつもりで臨みました。

仕事が忙しく、思うように稽古に参加できない時期もありましたが、その分、限られた時間を無駄にしないよう意識して取り組んできました。自主トレーニングを工夫したり、道場に行けた日は一回一回の稽古を大切に、神原支部長や先輩方のご指導を糧にしながら、なんとかここまでやることができました。

空手は、自分にとって欠かせない大切なものです。技術だけでなく、諦めない気持ちや感謝の心、努力を積み重ねる大切さを教えてくれました。きついときも、共に汗を流す時間が自分を支えてくれたと思います。

戸田師範をはじめ、神原支部長、師範代の皆さん、各支部長、そして先輩方のご指導と応援があったからこそ、二段の審査を受けることができました。本当にありがとうございます。

今回の昇段は一つの節目ではありますが、これをきっかけに更なる成長を目指し、より一層精進していきます。今後も初心を忘れず、極真空手を通じて自分を高めていけるよう努力を続けていきます。

◇昇段レポート◇



三段
高 津 信 二

新居浜高津・
川東支部支部長

この度は、昇段審査を受審する機会を与えて頂き誠に有難う御座います。

指導をして頂いた戸田師範を初め、各師範代、支部長、副支部長の皆様に深くお礼申し上げます。

昨年の6月に戸田師範から昇段審査を受けてみないか？とお誘いを頂いた際、長年左肩を痛めており治療が長引いていた事、年齢による体力面の不安等、気弱な気持ちもありましたが、この機会を逃したら次はいつチャンスが巡って来るか解らないと思い、受審を決意致しました。その後も左肩の調子は良くなり、夜に寝返りを打っても激痛で目が覚め日常生活も儘ならぬ毎日でしたが、型の規定が一部変更となったので変更点の見直し、廻し受けからの崩しの稽古、今年の審査は、覚える事も多く大変なので、とにかく出来る範囲で稽古を続けました。

審査の前には、本部に何度か出稽古に伺わせて頂き、戸田師範から直接指導をして貰い、注意された項目を毎回ノートに書き留めて何度も見返し稽古をしていましたが、稽古場として利用している公民館の稽古だけでは、時間の制約がある為、思う様な稽古が出来ず悩んでいました。そんな折り白石副支部長から設備の整った稽古場所を紹介して頂き、大変助かりました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

いよいよ審査当日を迎え、審査が始まると頭の中で自分に何度も脱力と言い聞かせ、審査に臨みました。基本、移動は何とか終えたのですが、型で師範から出稽古の際、指摘を受けていた利遠鎮が、ここでも旨く出来ず悔いが残りました。組手審査では、戸田道場を代表する強豪選手との連続の対戦でしたので、苦戦続きでしたが、審査前に可否に関係なく最後まで全力を出し、絶対に諦めないと目標を決めていたので、何度も効かされダウンしそうになりましたが、その都度「必死の力・必死の心」と心で唱え、何とか最後まで立って審査を終えることが出来ました。

数日後に師範から合格の御連絡を頂き、とても嬉しく思いました。それと同時に審査時に私を応援してくれた皆様、応援メッセージを送って頂いた、道場生及び保護者の皆様に感謝の気持ちで一杯になりました。今後も皆様に少しでもご恩返しができるように、高津・川東支部を盛り上げ、微力ながら戸田道場の発展に務めさせていただきます。押忍。

大会の熱戦をYouTubeで配信！



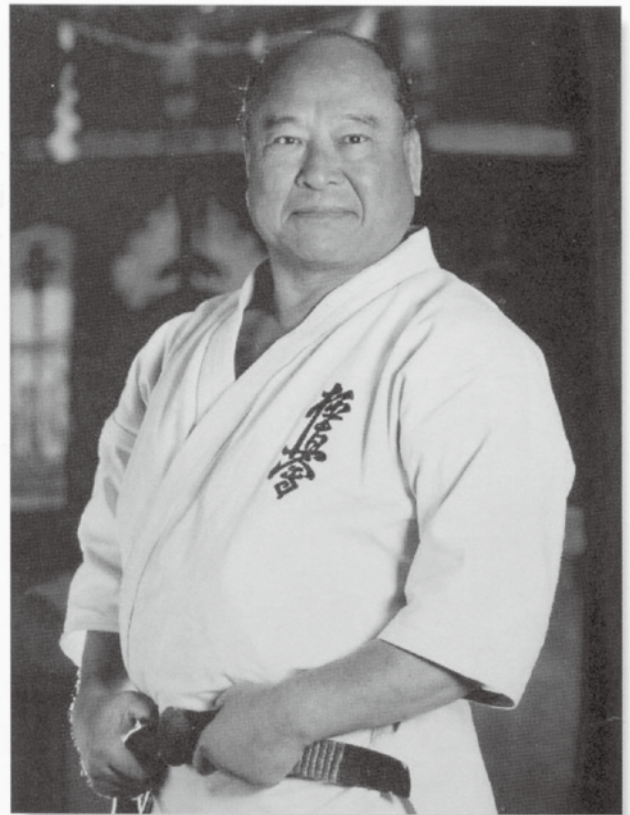
本日の大会の様子は、
後日YouTubeでご覧いただけます。
選手たちの真剣勝負を、
ぜひご自宅でもお楽しみください。

【公開チャンネル】極真会館愛媛県戸田道場
【公開予定日】8月10日頃

Sosai Masutatsu Oyama

極真空手創始者
大山倍達 総裁

- 1923年** 7月27日東京に生まれる。9歳から十八手の中国拳法を学び中学2年で初段となる。
- 1938年** 松濤館の開祖・船越義珍師の門を叩き、17歳で初段となる。
- 1947年** 京都円山公会堂で開かれた戦後初の第一回全日本空手道選手権大会で優勝する。
- 1948年** 生涯を空手一筋に捧げることを決意、千葉県清澄山中にて18ヶ月の山籠り修行を行う。
- 1950年** 千葉県館山で牛と対決。牛を倒すこと47頭、うち4頭は即死。
- 1952年** 日本の空手代表として、柔道の遠藤幸吉と共に渡米。全米32ヶ所でデモンストレーションを行い、プロレス・ボクシングなどの挑戦を受け、全勝。親指と人差し指で10円銅貨を曲げ、手刀でウイスキー瓶の首を切る技は、「神の手(ゴッド・ハンド)」と称賛された。またFBIの要請により空手を指導、FBIの逮捕術に取り入れられた。以来、世界各国をまわり空手の普及に努める。
- 1956年** 立教大学裏の古いバレエスタジオを借りて大山道場として稽古を始める。道場設立後も積極的に海外遠征を行いアメリカ、ヨーロッパなど16カ国に合計72支部が発足。
- 1965年** 国際空手道連盟極真会館を正式に発足。
- 1994年** 4月26日 大山倍達総裁 永眠 享年70歳



生前の大山倍達総裁が語る カラテをはじめる人のために

力なき正義は無能なり・・・

経済的に恵まれていて、時間の余裕もあって、何一つ不自由しない生活ができる今の若い人たちに、敢えて自分を追い込んでみろと言いたい。そういう豊かな生活の中にどっぷり浸かっていると、ひ弱な人間になってしまはいしないか。それよりも自分をとことん追い込んでみると、自分の力がわかってくる。自分の力の強さ弱さ、自分の精神的な強さ弱さ、自分の可能性や限界がわかってくる。そして人間というのは強くなる。成長するし、肝が据わってくる。

それから、「力なき正義は無能なり、正義なき力は悪政なり」この言葉は男として人間として生きていく上で非常に大事なことはないか。私は、青春時代にそのことを痛感したから、カラテの道を究めようとしたのかもしれない。自分の正義を主張するためには、力が必要である。いくら正論をはいても、それはそれだけである。問題はその正論を実行する力だ。

カラテを躊躇している人に

さて、カラテをやりたいと思いながらも、いろいろな理由で躊躇している人はたくさんいるでしょう。極真カラテには魅力がある。しかし、ちょっと怖い。そう考えているうちに入門するのをやめてしまう。もう一つは、極真カラテに魅力を感じて入門したが、あまりに地味である。華やかさが無い。それでやめていく。3番目は極真カラテはものすごく強い、と思って入るが実際にやってみるとそうではないかのかもと愚えてやめてしまう人・・・。

何事もそうだと思いますが、いざ何か新しいことを始めようとする時は、なにかしらの不安があり躊躇するものです。考える時間があるんです。まして、格闘技を、それも世界最強のカラテをやるとういうのだから、いろいろな不安やら心配やらあるのは当然です。怖いとか、痛い思いをするのではないかと考えれば限りがない。まったくそういう不安がないというのは、よほどの自信家

じゃないですか（笑）

だが、考えてばかりいてはなににもできない。自ら実践しなければ、人生何も得るものはない。これも真実です。だから、私はよく言う。ここに白いものがあって、これは砂糖だ、いや塩だと言っているでも始まらない。甘いのか、辛いのか舐めてみた者でなければわからない。舐めてみもしないで、甘いのか、辛いのか言ってもナンセンスです。もっとも、極真カラテが甘いとは思えないが（笑）たとえば、辛いにしても、どのくらい辛いのか、なんとか耐えられる辛さなのか、耐えられないほどの辛さなのか、それはやっぱり舐めてみなければわからない。カラテをやってみなければわからない。

今はマスコミが発達して、実際に舐めてみなくても、甘いとか辛いとか騒ぎ立てるが、男なら、人生を真剣に生きようとするなら、そんなマスコミの言うことにまどわされしないで、実際に自分で確かめてみるということも必要ではないか。

その結果、どうしても自分には耐えられない、自分にはどうしても向いていない、ということになったら、それはその時、考えればいいことじゃないですか。

それぞれのカラテの道を追求

喧嘩に強くなりたいからカラテをはじめると私はよく言う。まったくその通りだと思う。精神的に強くなりたいとか、言い方はいろいろあるが、カラテを習おうというのは、やっぱり喧嘩に強くなりたいからだ。

もちろん壮年部や女子部、少年部は少し違うかもしれない。健康のためとか、体力をつけるため、護身、美容、礼儀を身につけるといような目的でカラテをやります。しかし、それにつきつめて考えてみると、喧嘩という言葉は語弊があるが、強くなりたい、体力的にも精神的にも強くなりたい、いろいろな面で自信を持ちたいということです。いずれにしても、カラテというのはいろいろな意味での強さを追求するところと言える。男に限らないが、人間というのは強くあらなければならない。そのためにカラテを修行する。

最近、自分が体力的に人より劣っている、運動神経も鈍い、体も小さい、そういう人たちがカラテの道へ入ってくる。少しでも強くなりたいと思い。私のところにそういう手紙がたくさんきます。身長がないが極真カラテに入門できるだろうか、目が悪いが稽古についていけるだろうか、喧嘩して勝ったことがないが極真をやって強くなりたい、意志がよわいのでカラテをやって精神的に強くなりたい……。

私はそういう人たちには、ぜひカラテをやってみてくださいと言いたい。弱いからカラテを習うのです。体力がないからカラテを習って体力をつけるのです。もちろん精神は鍛えられます。最初から強いならカラテなどやらなくてもよいかもしれ

れない。弱いからこそカラテをやるのだから。

極真カラテは、最強の格闘技であるがいろいろな目的でカラテをやる人がいていいと思う。選手権大会に出てチャンピオンを目指すのも一つのカラテの道だ。だが、カラテはそれだけではない。選手権大会に出ても勝てそうもない、チャンピオンにはなれないが、しかし、おれはおれの強さを追及する人がいてよい。カラテという、日本が世界に誇る武道の技と精神を、それぞれがそれぞれに合った方法で“利用”すればいいんです。

ゆっくりと階段を登る

入門したら決して焦らずゆっくり歩んでいい。たしかに、最初から天分に恵まれていて若くして強くなる人間もいる。天才的にカラテがうまくて努力家でもあって、早い段階から花を咲かせる人もいる。それはそれで素晴らしい。だが、そういう天分に恵まれた人というのは少数だ。多くの人はそうではなく、ながい道のりをコツコツと地道に歩んで強くなっていく。大器晩成という言葉があるが、一步一步着実に強くなっていけばいい。焦ることは一つもない。

カラテというのは地味な武道です。極真カラテは多くの人たちの支持があるから、選手権大会などを見ると非常に派手に見えるかもしれない。しかし、実際のカラテの修行というのは地味な稽古の積み重ねです。私が半世紀にわたってカラテを追求してきて、いまだに自分の握り方に疑問を持っている。それくらい道は長く奥の深いものです。だから、焦って強くなろうとすると、途中で挫折する。ゆっくり、階段を一步一步登っていくのがカラテの修行です。武道の修行なのです。

大山倍達総裁座右の銘

- 一、武の道は礼に始まり礼で終わる
よって常に礼を正しくすべし
- 二、武の道の探究は断崖をよじ登るがごとし
休むことなく精進すべし
- 三、武の道においてはすべてに先手あり
しかれども私闘なし
- 四、武の道においても金銭は貴いものなり
しかれども執着すべからず
- 五、武の道は姿なり
何事においても常に姿を正しくすべし
- 六、武の道においては千日を初心とし
万日の稽古をもって極とす
- 七、武の道における自己反省は
常に練達への機会なり
- 八、武の道は字のためにあるものなり
修練にて私心を忘れるべし
- 九、武の道においては点を起とし 円を終とす
線はこれに付随するものなり
- 十、武の道においては真の極意は体験にあり
よって体験を恐るべからず
- 十一、武の道において信頼と感謝は
常に豊かなる収穫を得ることを忘るべからず